

テグラシャッター1型Aタイプ

取付説明書

工事区分にご注意ください。
23ページ「25.結線」のみ有資格の電気工事店様にご依頼ください。

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 正しく施工、組付をしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

■梱包明細書

①壁部ユニット

●側壁セット(右)

(1 梱包)

名 称	員 数
側壁ユニット(右)	1
レール(右)	1

●側壁セット(左)

(1 梱包)

名 称	員 数
側壁ユニット(左)	1
レール(左)	1

●前面パネルセット

(1 梱包)

名 称	員 数
前面パネル	1
光電センサー用CD管(L=4800、1800)	各1

●笠木セット

(1 梱包)

名 称	員 数
上部カバー	1
笠木	2

●部品セット

(1 梱包)

名 称	員 数
上部カバー端部キャップ(右)	1
上部カバー端部キャップ(左)	1
上部カバー取付ネジ φ4×10(平座金・ワッシャー付)	14
笠木取付ネジφ4×10(平座金・ワッシャー付)	4
ベースプレート(100角用)	2
ベースプレート(60角用)	2

●部品セット(つづき)

(1 梱包)

名 称	員 数
ホールインアンカー M10	8
ベースプレートジョイントボルト M8×120	2
〃 M8×80	2
〃 平座金 M8用	4
〃 バネ座金 M8用	4
〃 六角ナット M8用	4
前面パネル固定金具	2
前面パネル固定金具取付ボルト	4
前面パネル取付ボルト	12
レール取付ネジ M4×10ナベ	12
プッシュボタン φ8用	12
ブラケット(L・R)	各1
ブラケット取付ボルト M8×18セムス	4
インシュロック・バンド・テープ付固定具	1
取付説明書、取扱説明書、保証書	各1
センサー取付プレート	2
センサー取付プレート取付ネジφ4×8	4
センサー取付ネジ M4×25	4
センサー取付ナット M4	4
センサーカバー(R、L)	各1
センサーカバー取付ネジ	8
投光側光電センサー(コード5m付)	1
受光側光電センサー(コード2m付)	1
CD管固定サドル	2
CD管固定サドル取付ネジ φ4×10	4
ケース防水材(t=3×12 1.5m)	2
受信機およびアンテナ取付ネジ(φ4×19テクス)	4

②タイルセット

名 称	員 数	商品コード	必要梱包数	必要数
二丁掛平 大箱	56	01	7	399(27)
二丁掛平 小箱	34	02	1	
曲 右	40	11	2	66(14)
曲 左	40	12	2	66(14)
曲 右(95+151)	20	31	2	36(4)
曲 左(95+151)	20	32	2	36(4)
曲 (38+38)	40	33	2	72(8)
天端用二丁掛平	15	15	2	22(8)
天端用曲セット		16	1	
○天端用曲右	6			1(5)
○天端用曲左	6			1(5)
D134用天端用曲セット		41	1	
○天端用曲 (38+38)	2			2
○天端用曲右(95+151)	2			1(5)
○天端用曲左(151+95)	2			1(1)

()内は予備数

〈タイル形状一覧〉

名称	二丁掛平	曲 右	曲 左	天端用二丁掛平
形 状				
名称	天端用曲右	天端用曲左	曲 (38+38)	曲右 (95+151)
形 状				
名称	曲左 (95+151)	天端用曲 (38+38)	天端用曲右 (95+151)	天端用曲左 (95+151)
形 状				

●接着剤セット

(1 梱包)

名 称	員 数
接着剤(333ml)	10

●接着剤セット(4本入)

(1 梱包)

名 称	員 数
接着剤(333ml)	4

③シャッターユニット

●スラットセット

(1 梱包)

名 称	員 数		
	ステン	スチール	アルミ
スラット本体(ステン)	1		
スラット本体(スチール)		1	
スラット本体(アルミ)			1

●カバー

(1 梱包)

名 称	員 数
上板(右)	1
前板(右)	1
下板(右)	1
上板(左)	1
前板(左)	1
下板(左)	1

●シャフト

(1 梱包)

名 称	員 数	
	ステン・スチール	アルミ
シャフト本体(ステン・スチール)	1	—
シャフト本体(アルミ)	—	1
アンテナ	1	1
リモコン送信機	1	1
クラッチ開放リング	1	1
ワイヤークリップ	1	1
アングル材固定ネジ M4×10特サラ	14	14
カーパー取付ネジ φ4×12トラス	20	20
スラット固定ボルト M8×25	3	3
シャフト固定ボルト M8×65	2	2
シャフト・スラット取付ナット M8	5	5
シャフト・スラット取付平座金	10	10
シャフト・スラット取付バネ座金	5	5

●フレーム

(1 梱包)

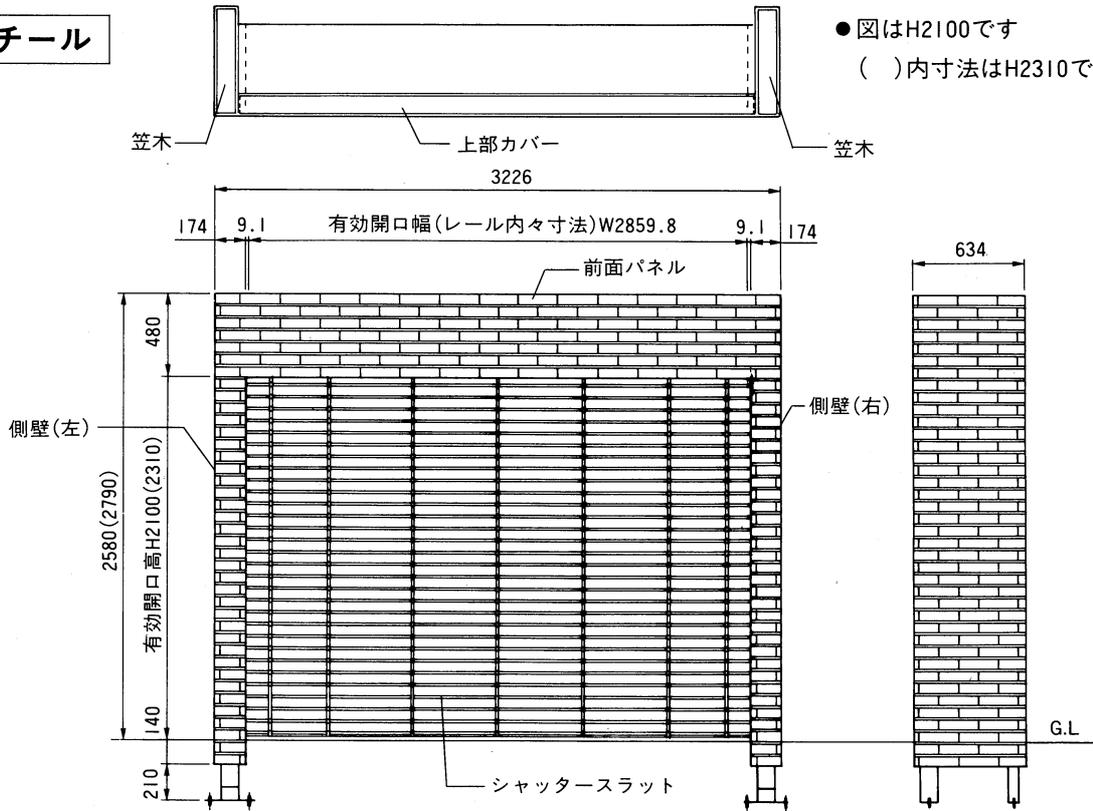
名 称	員 数
カバーアングルA	3
カバーアングルB	1

※ 施工前に必ず裏表紙の「施工上の留意点とお願い」をお読み下さい。

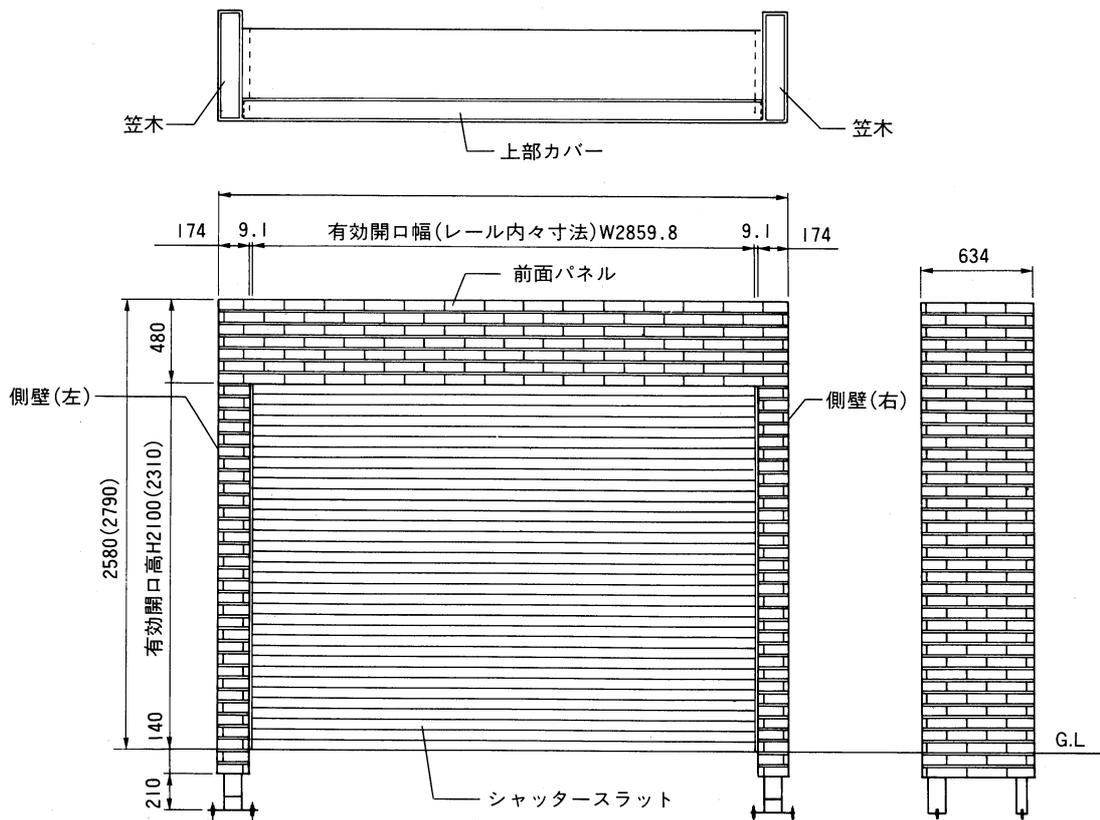
1.基本寸法及び各部名称

ステン・スチール

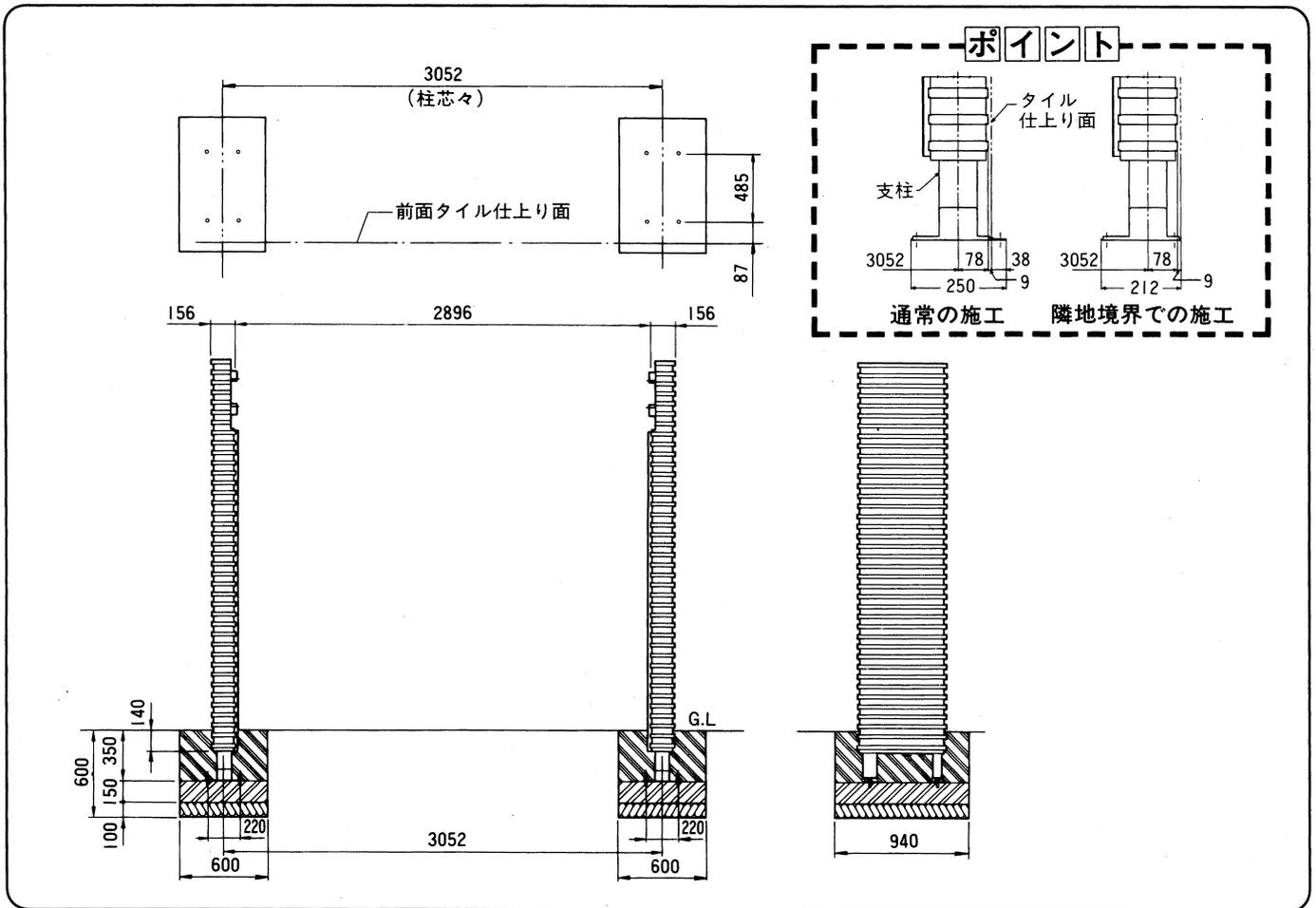
●図はH2100です
()内寸法はH2310です。



アルミ



2.基本寸法・壁ユニット寸法

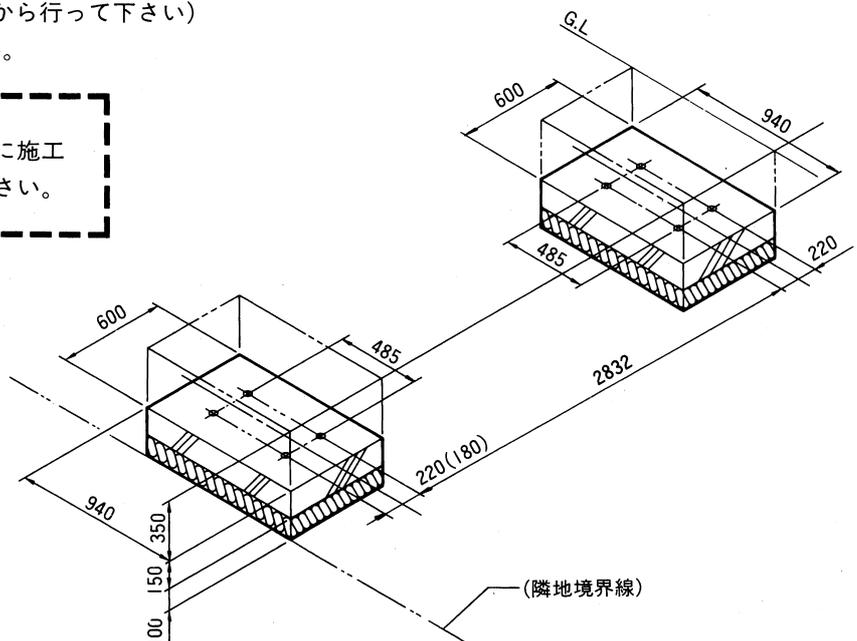


3.基礎の施工

- ①基礎施工図の要領で捨コンクリートを施工して下さい。
- ②墨出しをしてホールインアンカーの穴あけ(φ10.5)を行って下さい。
(穴あけはコンクリートが充分硬化してから行って下さい)
- ③ホールインアンカーを打ち込んで下さい。

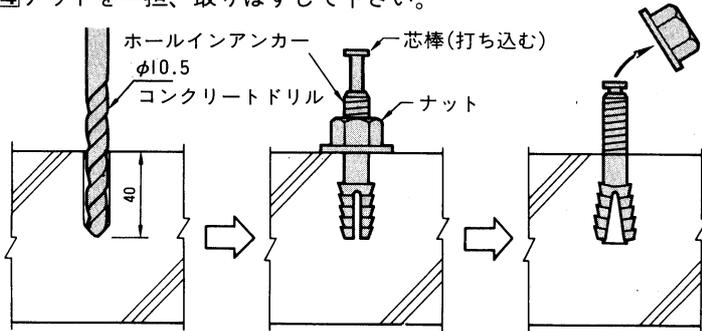
注 意

- タイル仕上り面を隣地境界ぎりぎりに施工する場合は、()内寸法に従って下さい。



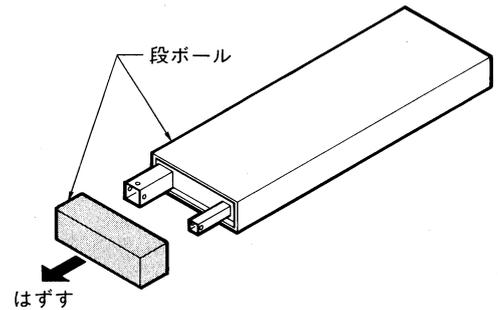
4.ホールインアンカーの施工

- ①直径10.5mmのコンクリートドリルで深さ40mmの下穴をあけて下さい。
- ②ホールインアンカーに付属のナットを手で一杯までネジ込んで下さい。
- ③穴にホールインアンカーを入れ、芯棒をハンマー等で充分打ち込みます。
- ④ナットを一担、取りはずして下さい。

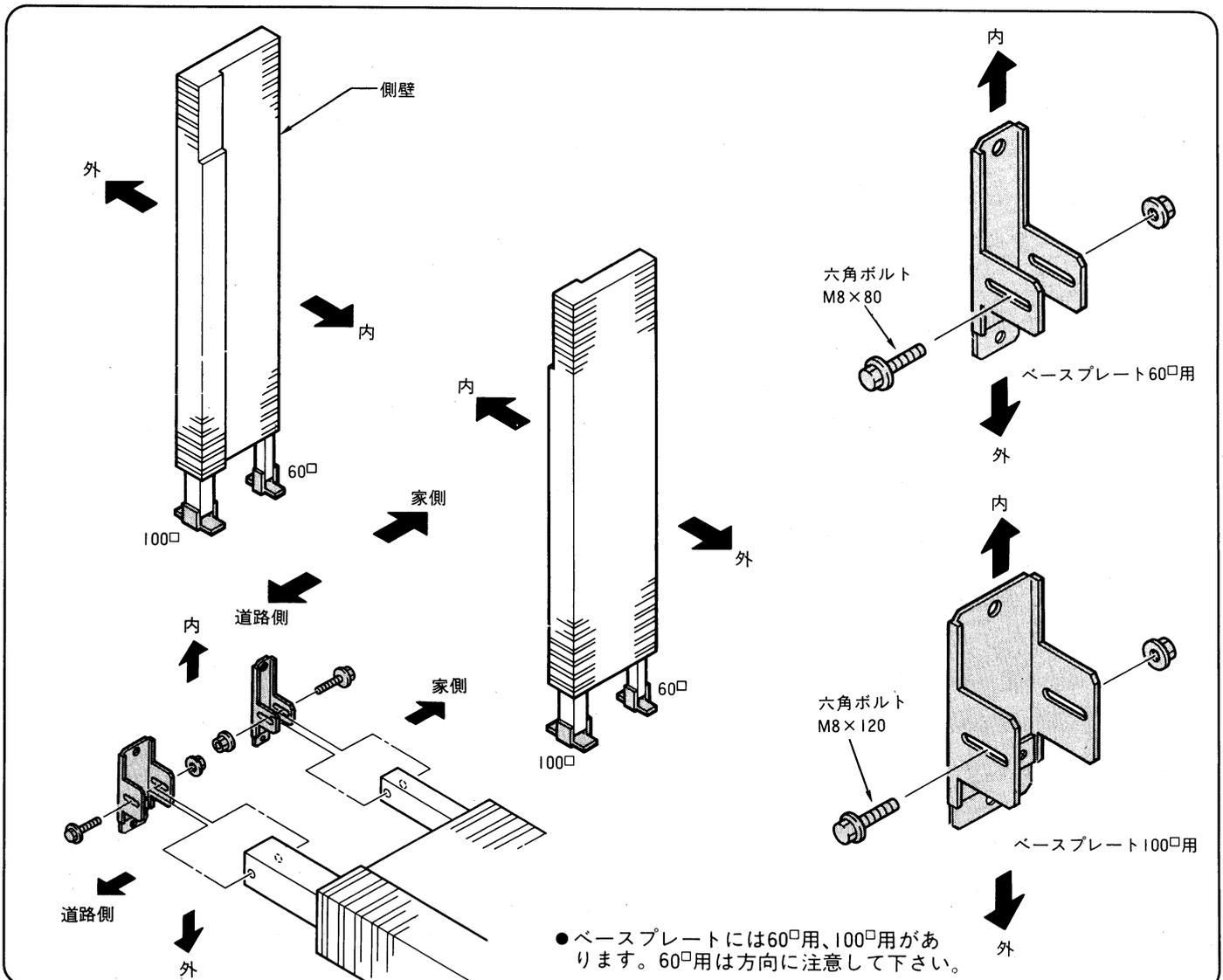


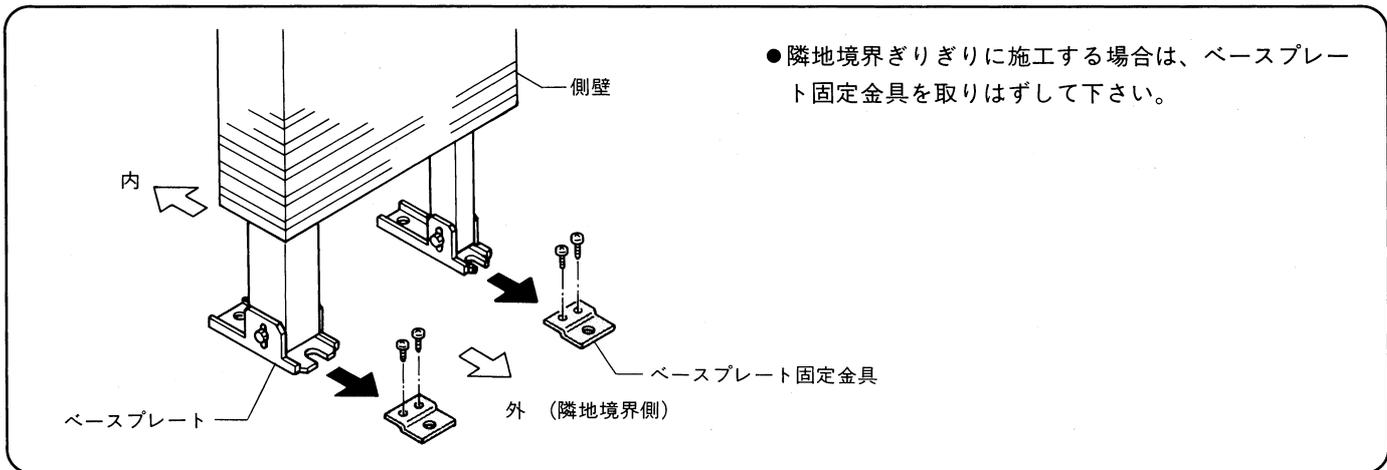
5.開梱と養生

- ①段ボール梱包の下部をはずして下さい。
(継ぎ目のテープのミシン目を切って下さい)
- ②上部の段ボールは養生材として用いますので建込まで付けておいて下さい。
※タイル張りまで日を置く場合は、紫外線の影響を避ける為、必ず段ボールで養生して下さい。



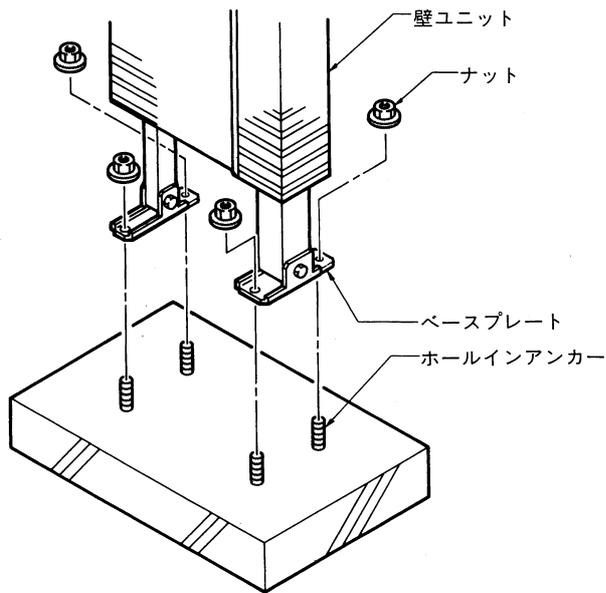
6.ベースプレートの取付け





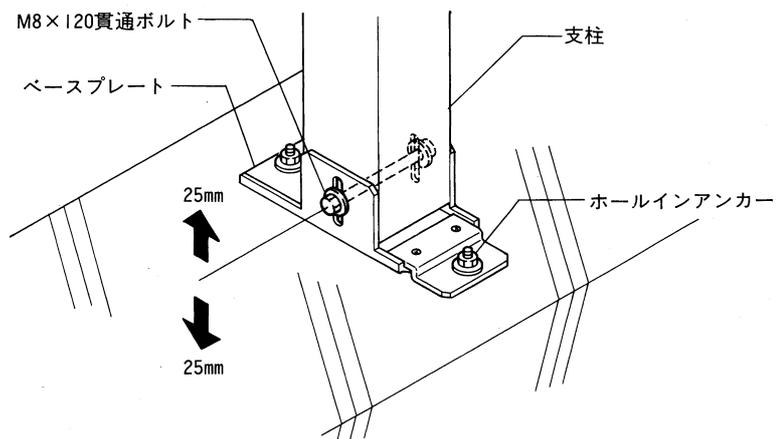
7.壁ユニットの固定

①ベースプレートをホールインアンカーにナットで仮固定します。



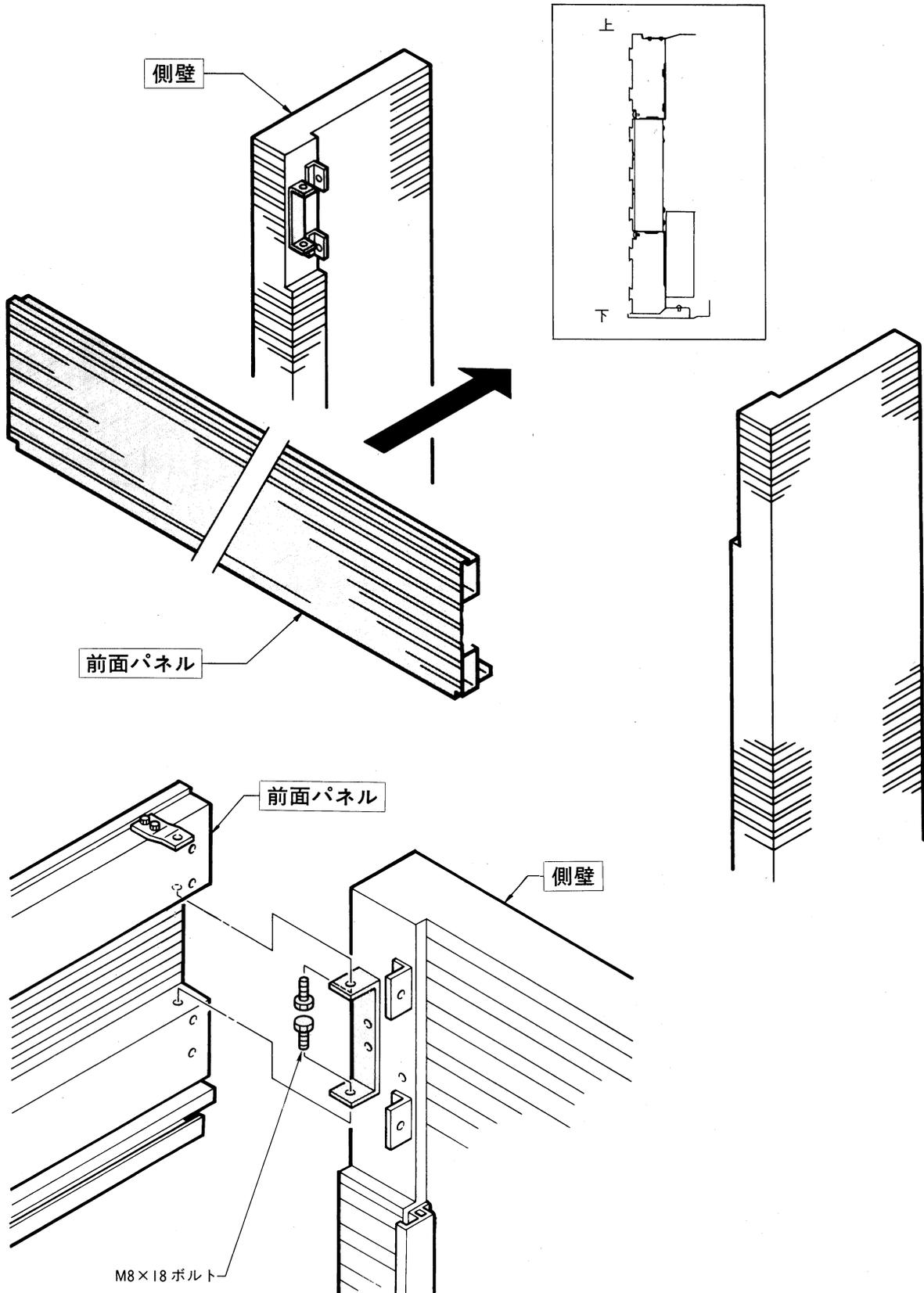
<レベルの調節方法>

ベースプレートの貫通ボルト (M8×120) をゆるめて調節して下さい。(調節範囲は50mmです)

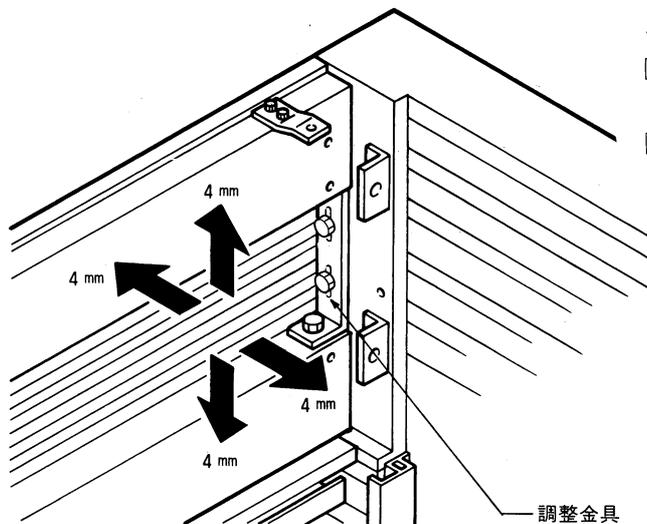


8. 前面パネルの取付け

①側壁に前面パネルをボルト (M8×18) で取付けて下さい。

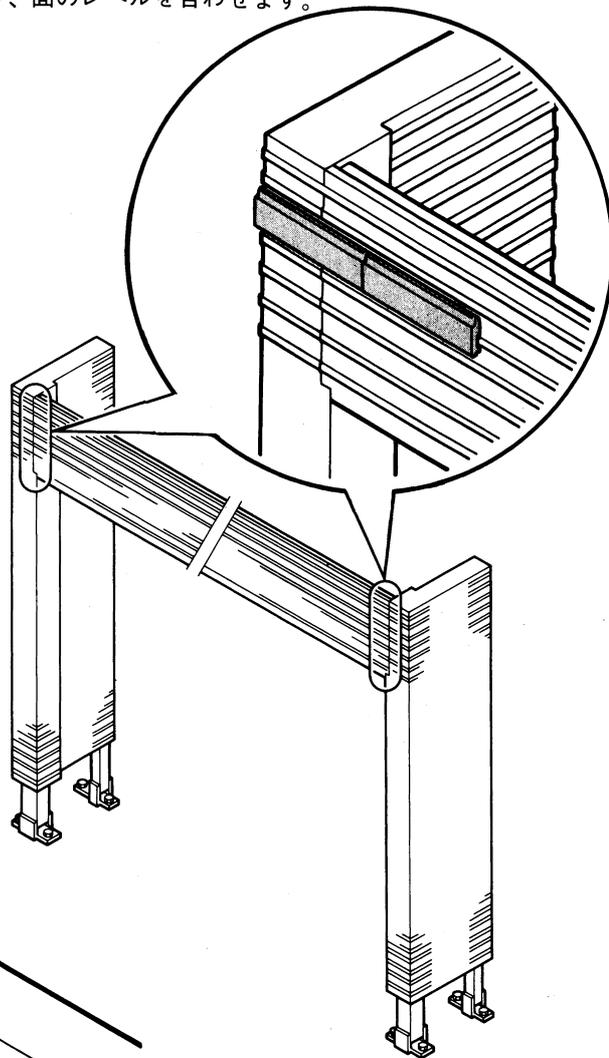


9. 壁のレベル調整



〈レベルの調整方法〉

- ①調整金具のボルト (M8×18) をゆるめて下さい。
(調整範囲は、±4 mmです)
- ②側壁と前面パネルのつぎ目にタイルをかけて高さ、面のレベルを合わせます。

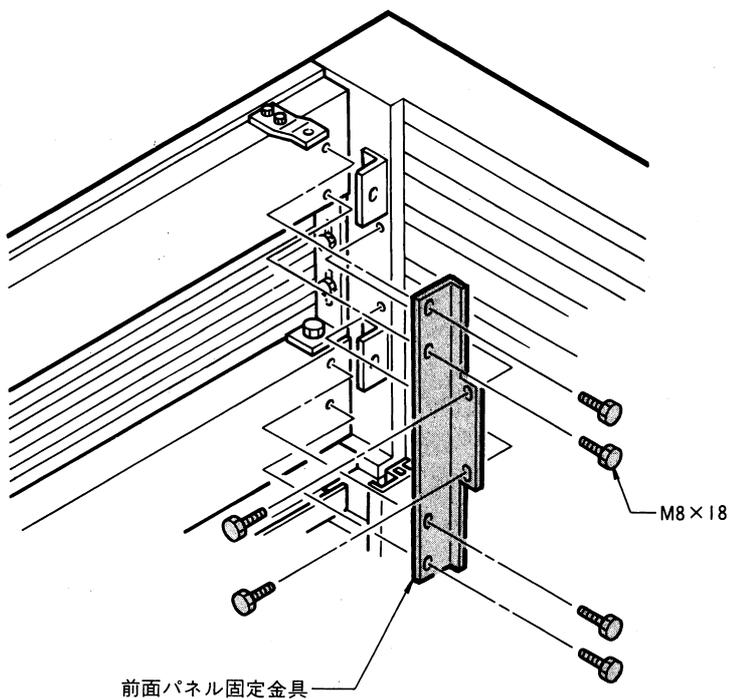


ポイント

側壁と前面パネルのつぎ目にタイルをかけて面、高さが合うように調整ボルトで調整して下さい。(調整範囲は±4mmです。)

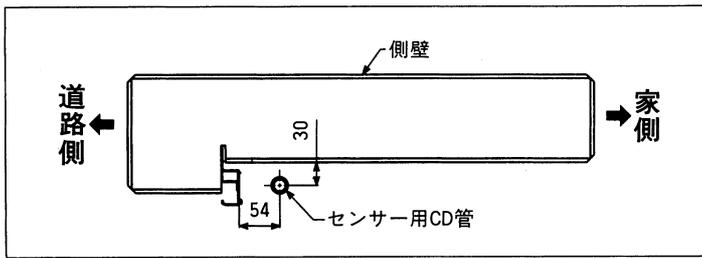
前面パネルの固定

- ①調整後、調整金具のボルトを本締めて下さい。
- ②前面パネル固定金具をボルト (M8×18) で固定して下さい。



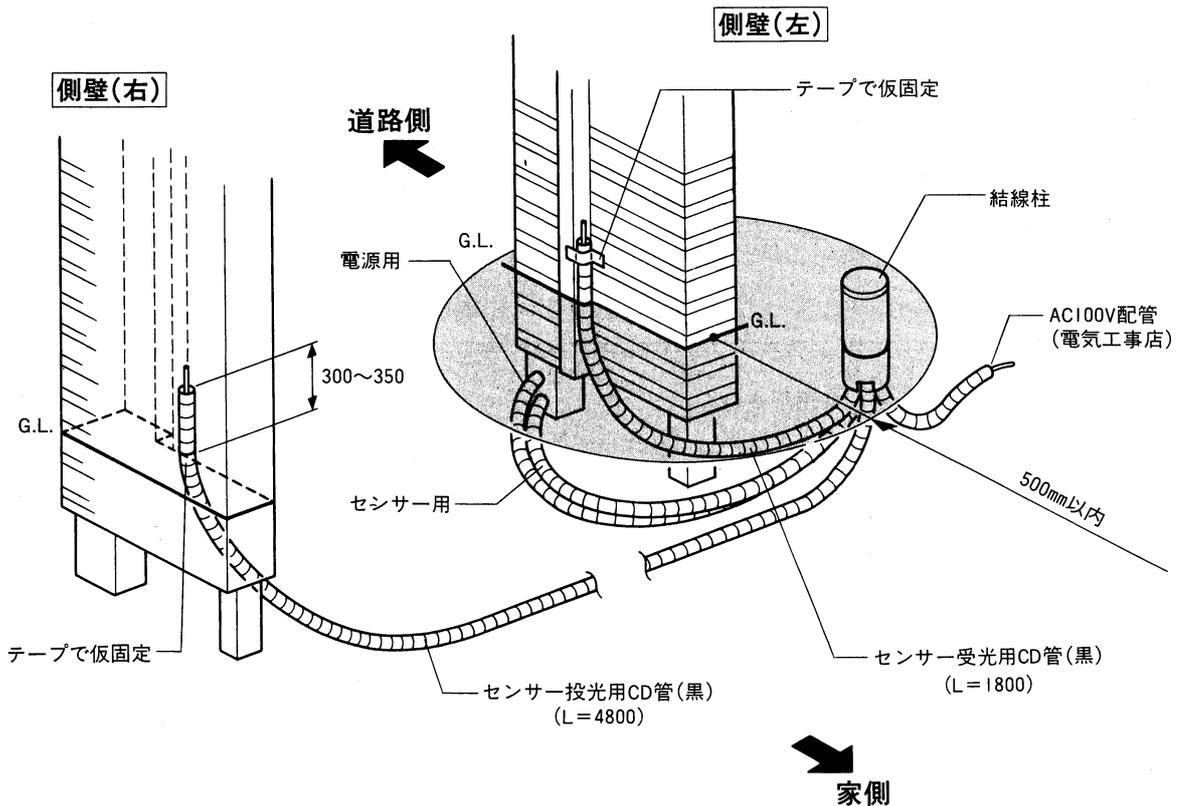
10. CD管の配管

- ①結線柱は、側壁(左)の家側から半径500mm以内に施工してください。
- ②側壁(支柱部)からのCD管(電源・センサー用)・センサーからのCD管(センサー受光・投光用)計4本を結線柱まで配線してください。
- 尚、結線柱内での電気工事は有資格の電気工事店様へご依頼ください。
- ③センサー用CD管は、下図の位置でG.Lより300~350mm出してテープ等で仮固定してください。



注 意

センサー用CD管(L:1800、4800)にセンサーケーブルを後で通しますので中に入っている針金は、はずさないでください。

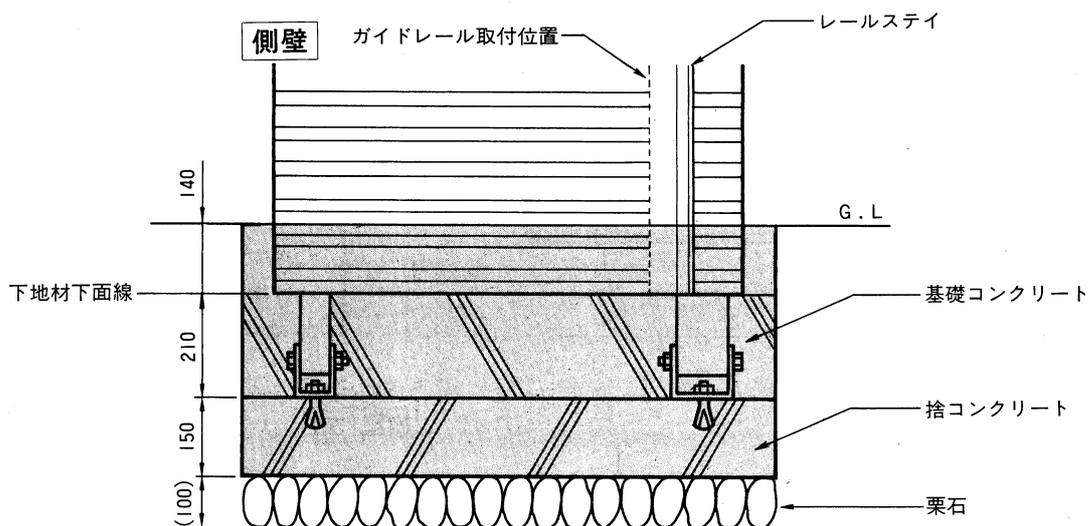


ポイント

22ページの24光電センサーの取付けまで土間は仕上げないでください。

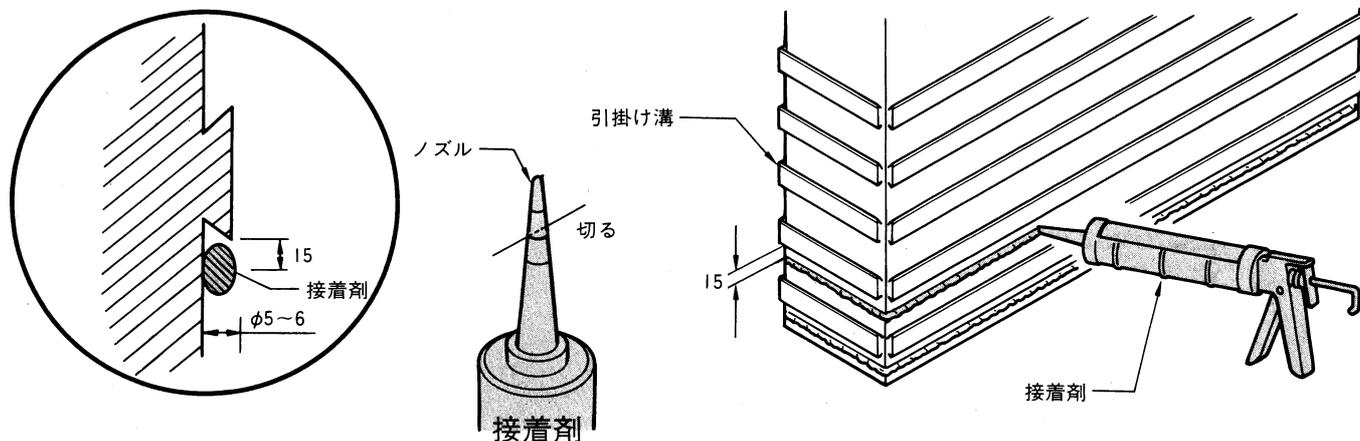
11. 基礎コンクリート打ち

- ①基礎コンクリートを打設します。後でガイドレールが付くため、下地材の下面までとして下さい。
特に支柱、ベースプレート廻りには、充分行き渡る様にして下さい。
- ②組付完了後、G.L指示線まで土間コンクリートの打設をお願いします。



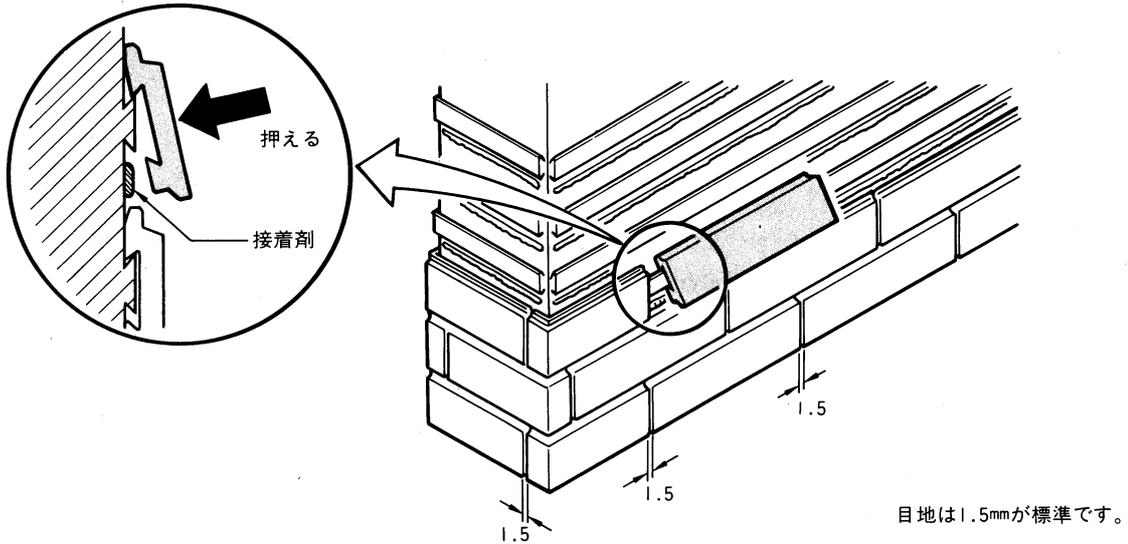
12. 接着剤の塗布

- ①接着剤は当社指定の物を必ずご使用下さい。
- ②接着剤のノズルをカッター等で切して下さい。(ノズルに付いている溝のうち下から2番目を切りますと所定の量を出し易くなります。(φ5~6))
- ③タイル引掛け溝の下約15mmの所へ塗布して下さい。(塗布量の目安は接着剤1本で1㎡です)



13. タイル張り

- ① タイルは下段から上段に張って行きます。
 - ② 引っ掛け溝にタイル上部を引っ掛けてから接着剤に押し付けます。
 - ③ 目地の調整は接着剤塗布後60分以内に行ってください。
- ※ タイル表面に接着剤が付着しない様にご注意下さい。万一付着した場合は硬化する前に拭き取って下さい。

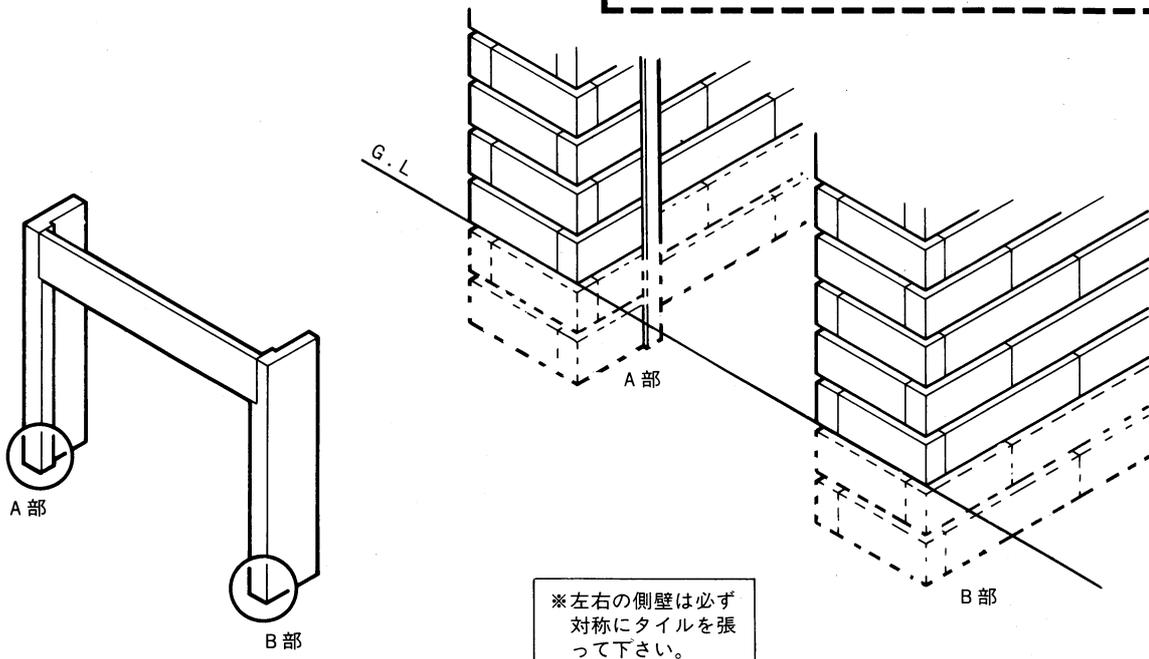


14. タイルの張り始め

- ① タイルは、下段から順に張って下さい。

注意

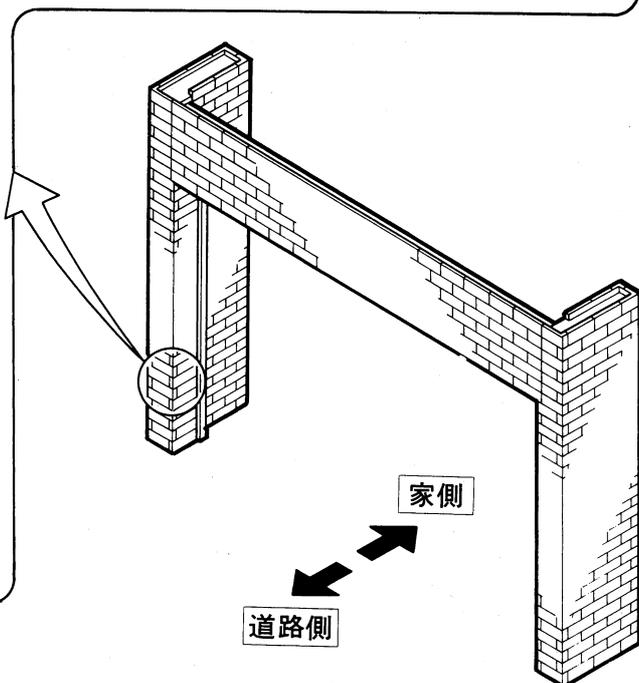
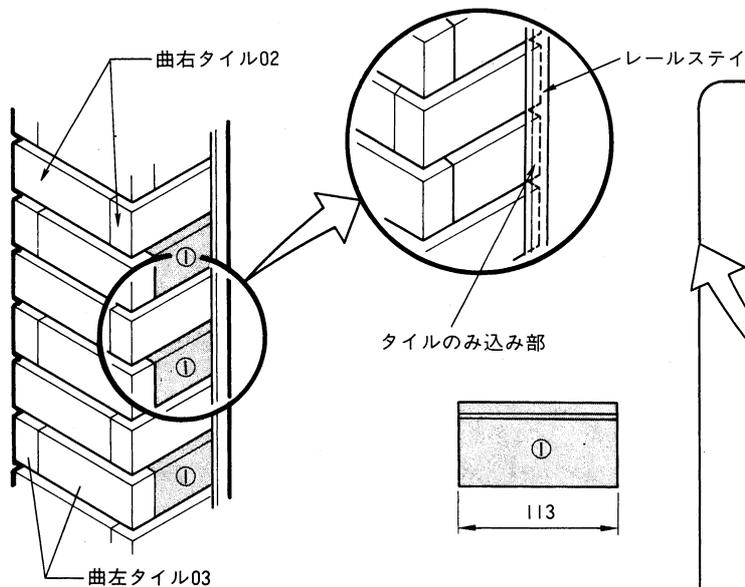
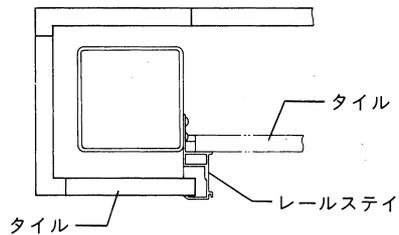
G.L下2段分も、タイル張り出来るように、下地があります。傾斜地等で、G.Lの下地が出る場合は、そこへタイルを張り付けて下さい。



15. タイルの割付

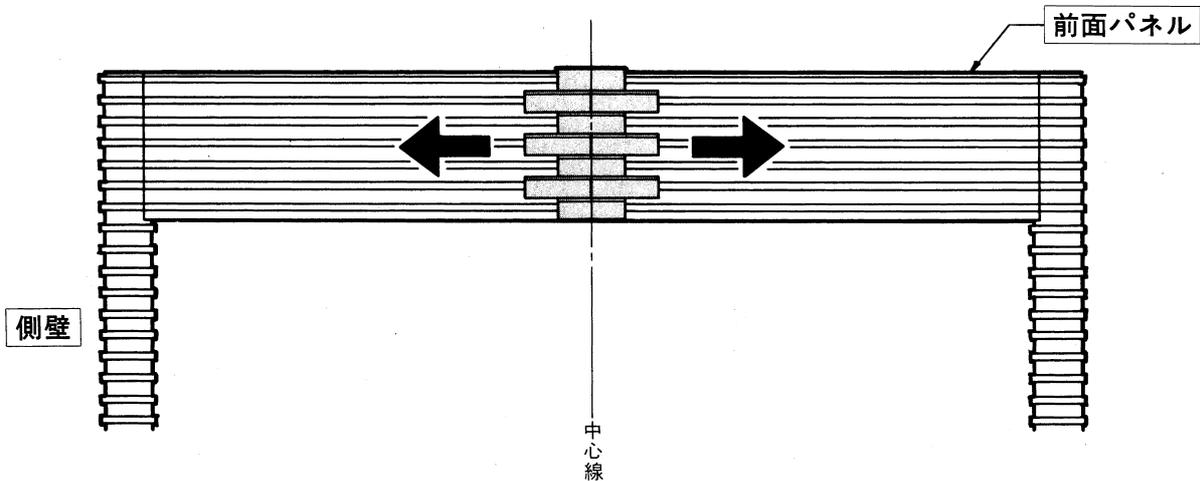
① 小口面 (D=180) のタイル張り

- レールステイの中にタイルをのみ込ませます。(①は切物になります)



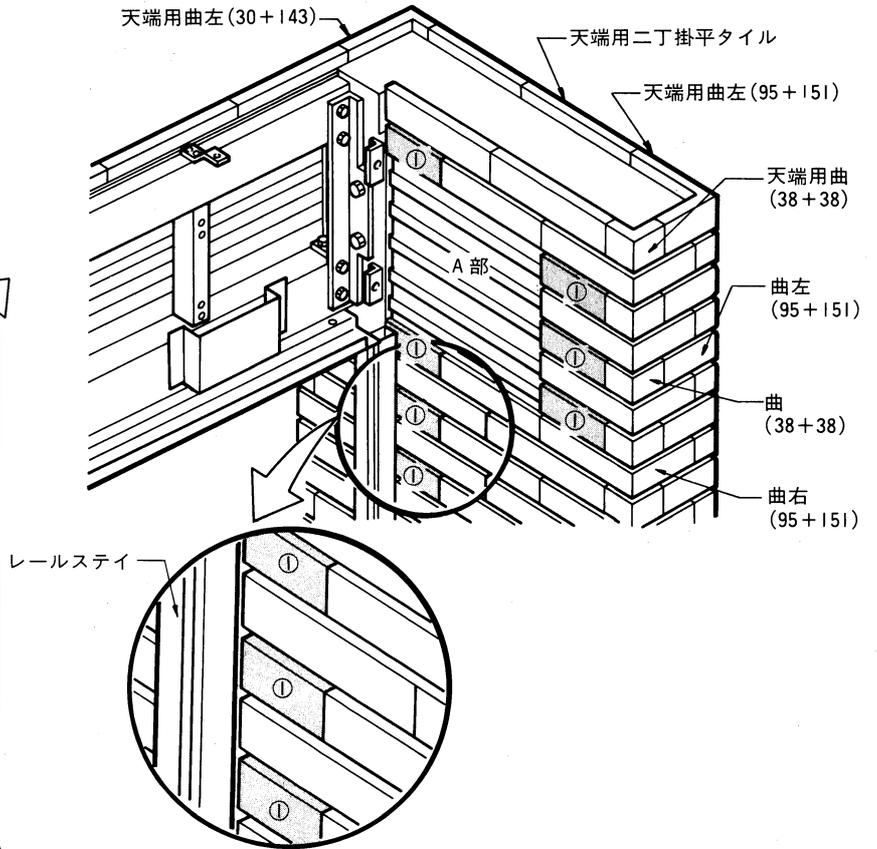
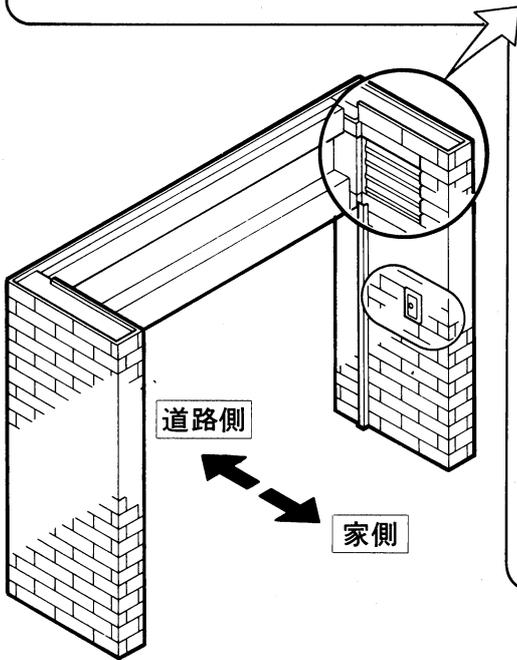
② 前面パネルタイル張り

- 前面パネルのセンターから割り付けて下さい。



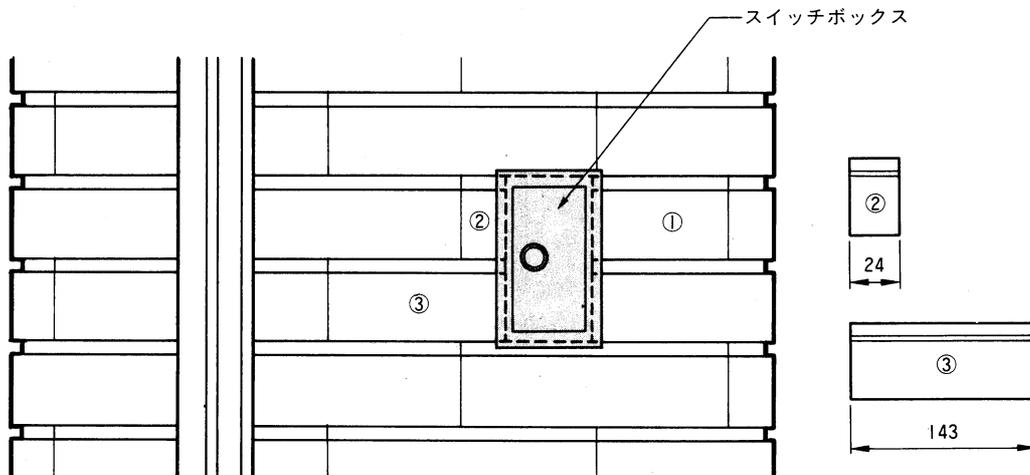
③ ブラケット取付部のタイル張り

- A部を除いて右図のようにタイルを張ってください。
- ①は、切物となります。



④ スイッチボックス部のタイル張り

- スイッチボックスの蓋部をはずし、タイルを張ってください。
- ②、③は切物となります。

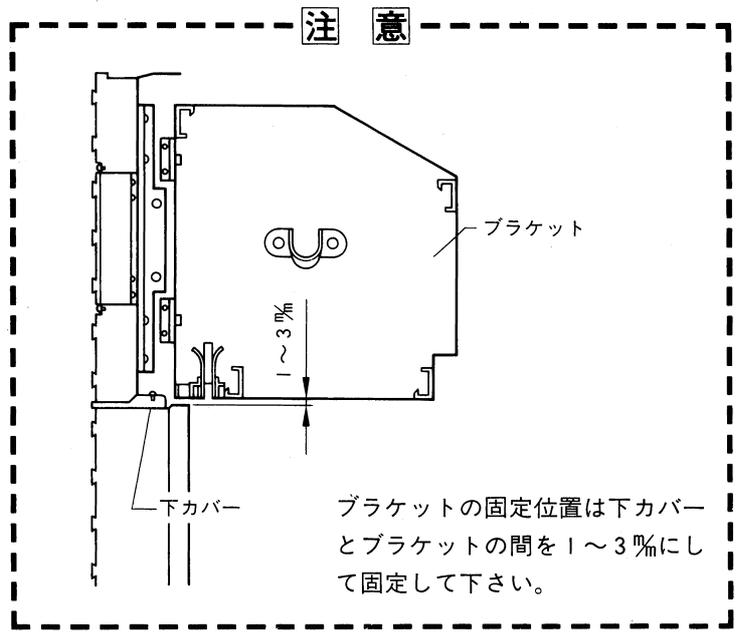
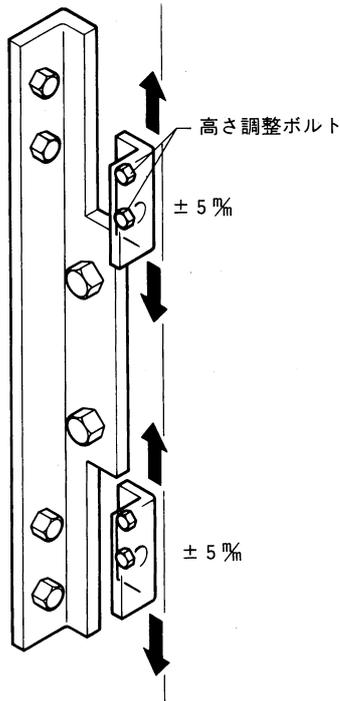
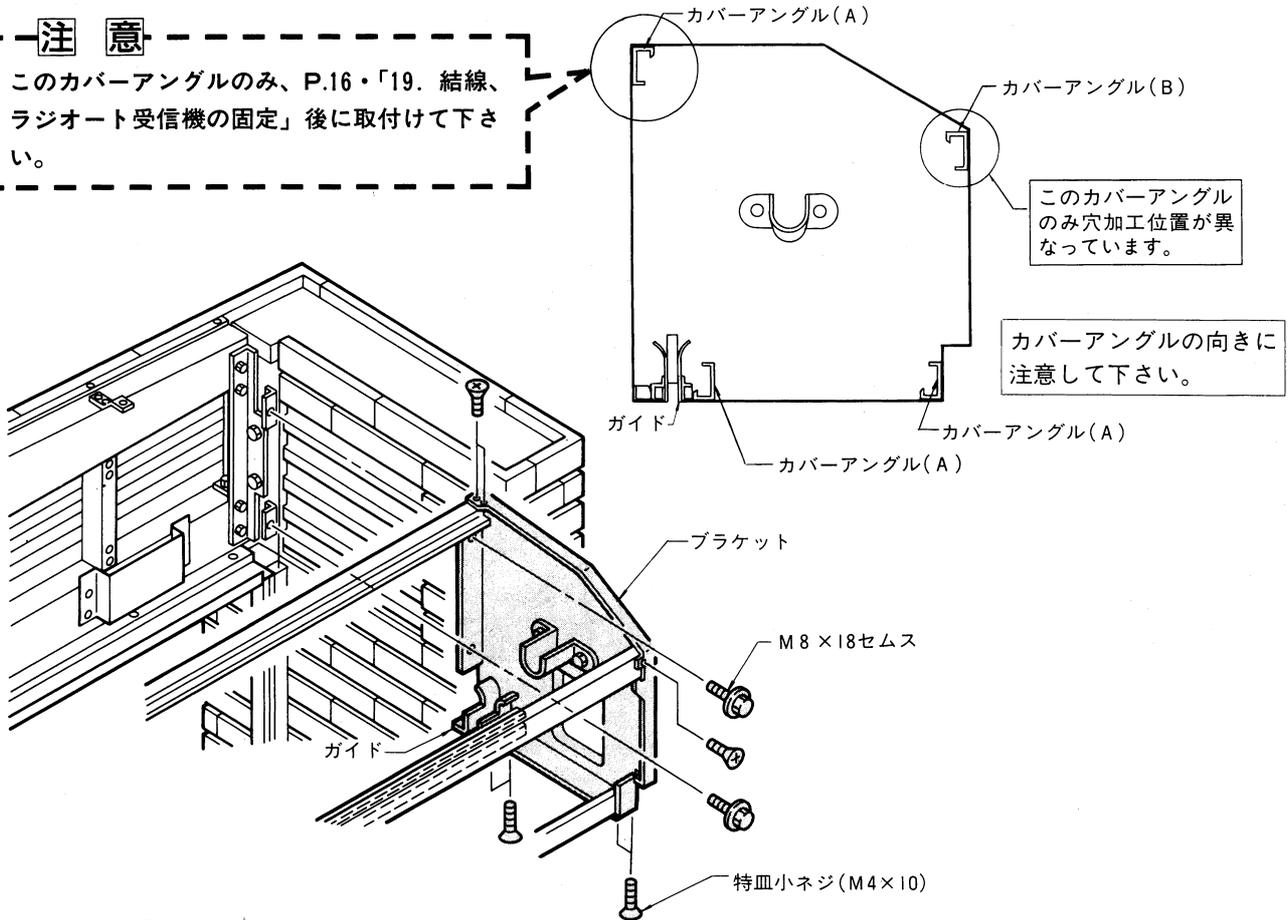


16. ブラケット、カバーアングルA・Bの取付け

- ① ブラケットを側壁に六角ボルト (M8×18セムス) で固定して下さい。
- ② 高さ調整ボルトをゆるめて、ブラケットと下カバーの間を1~3%にして再び締付けて下さい。
- ③ カバーアングル (A)、(B) を「特皿小ネジM4×10」でブラケットへ固定して下さい。
- ④ カバーアングル (A) を「特皿小ネジM4×10」でガイドへ固定して下さい。

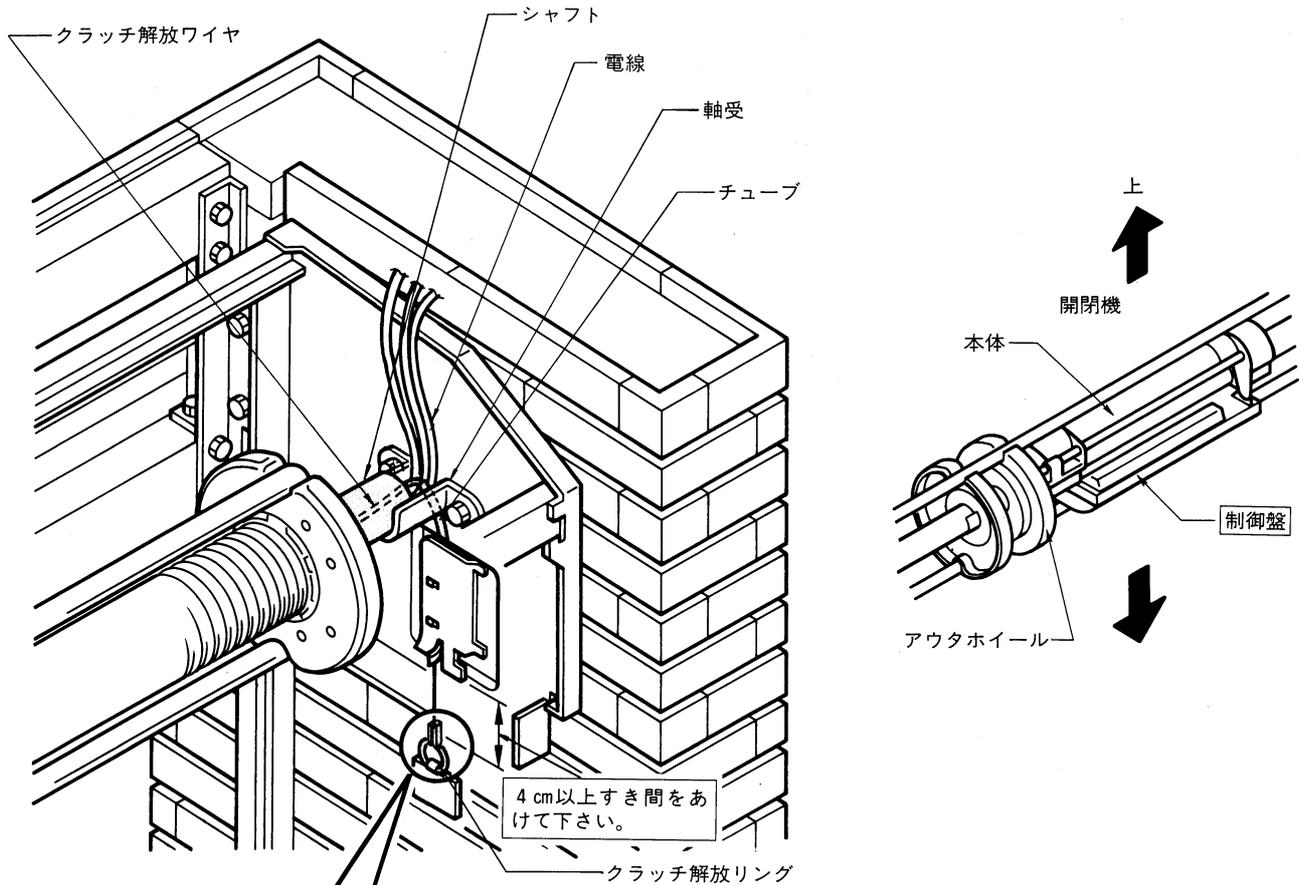
注意

このカバーアングルのみ、P.16・「19. 結線、ラジオ受信機の固定」後に取付けて下さい。

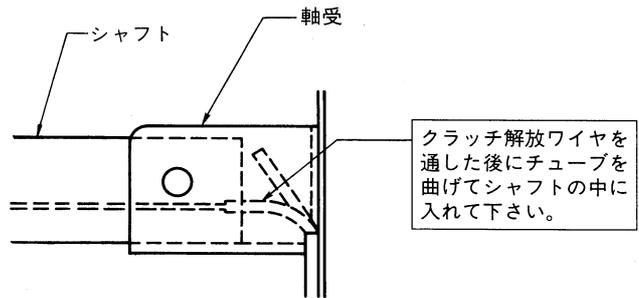
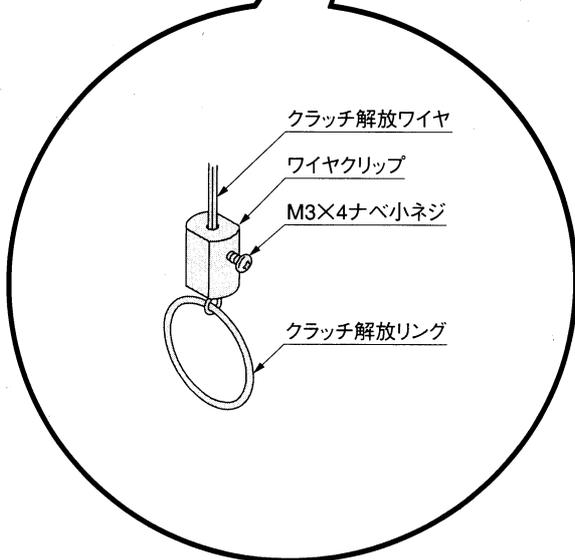


17. 巻取シャフトの取付け及びクラッチ解放ワイヤの処理

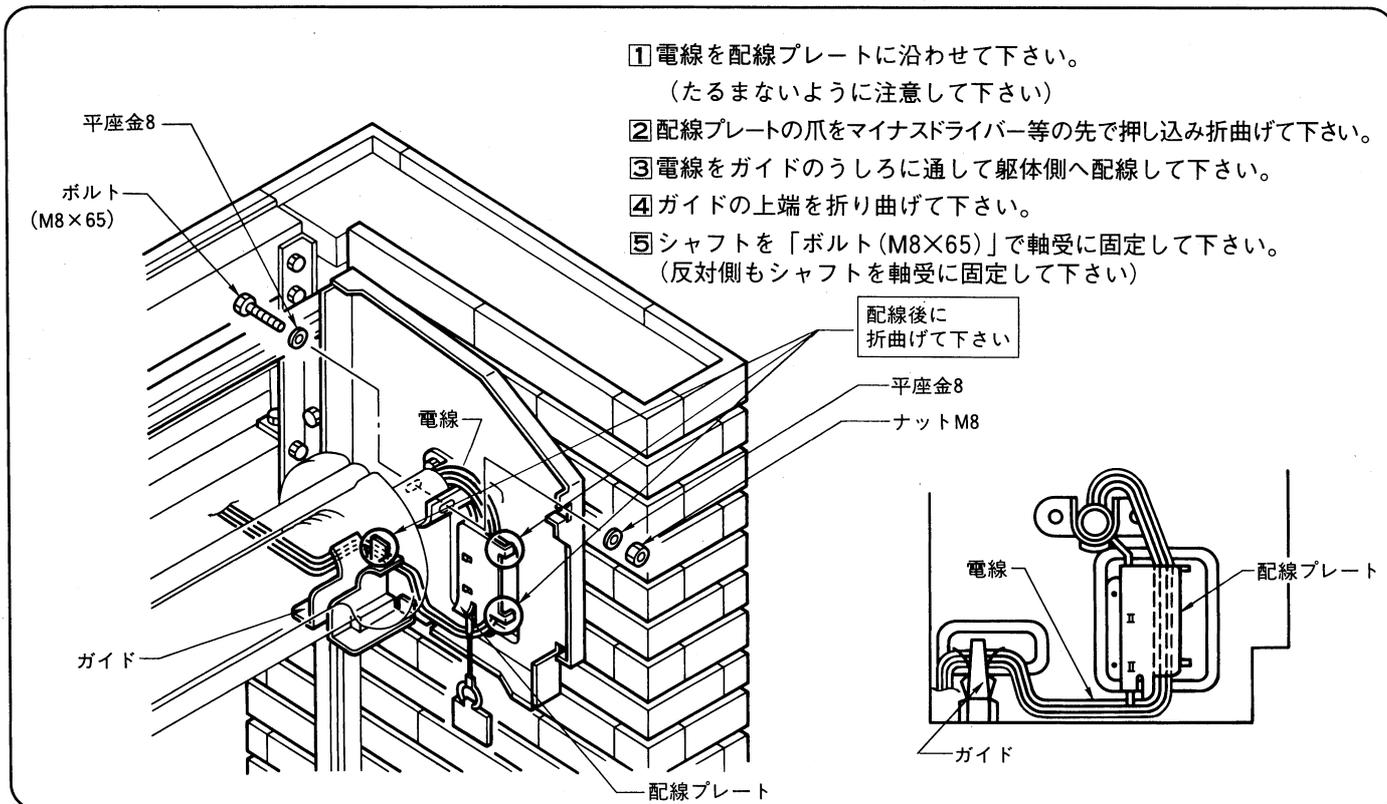
- ① シャフトから出た電線を右側に開閉機の制御盤を下側にして巻取シャフトを軸受にのせて下さい。
- ② クラッチ解放ワイヤをチューブに通して下さい。
- ③ クラッチ解放ワイヤにクラッチ解放リングを取付けて、ワイヤクリップでかしまして下さい。



約 4 cm 強く引くとクラッチが解放して、約 2 cm 軽く引くとクラッチが復帰します。(強く引くと再び解放されますので軽く引いて下さい。)

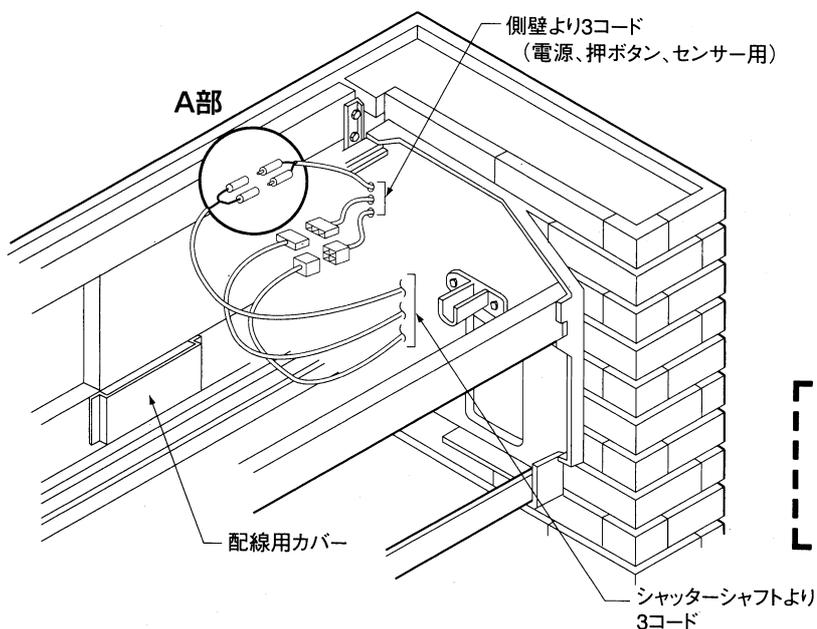


18. 電線の処理、シャフトの固定



19. 結線

- ① 各コネクタをジョイントして下さい。ジョイント部はA部を除いて2ヶ所あります。
- ② A部のコネクタ (2芯) をジョイントして下さい。
- ③ 電線がシャッターと接触しないように電線をカバーの中に入れて下さい。



ポイント

同じ形状のコネクタ同士を接続して下さい。

20.スラットの取付け(ステン・スチールの場合)

スラットの取付けは駆動ギアがアウトホイールから外れていることを確認した後行って下さい。
万が一外れていない場合は開閉機のクラッチ解放部を押し下げて外して下さい。

- ①脚立（6尺）の上から2段目で足場を組んで下さい。
- ②スラットを足場板の上に乗せて下さい。
吊りもとが図1の向きになるようにスラットを置いて下さい。
- ③スラットを少しほどいて下さい。
- ④スラット端部をガイドに通しながら吊りもとをホイール部まで引き上げて下さい。
- ⑤中央の吊りもとを「ボルト（M8×20）」でホイールへ固定して下さい。
- ⑥両端の吊りもとを「ボルト（M8×20）」でホイールへ固定して下さい。
- ⑦足場を外してスラットを静かにたらしして下さい。

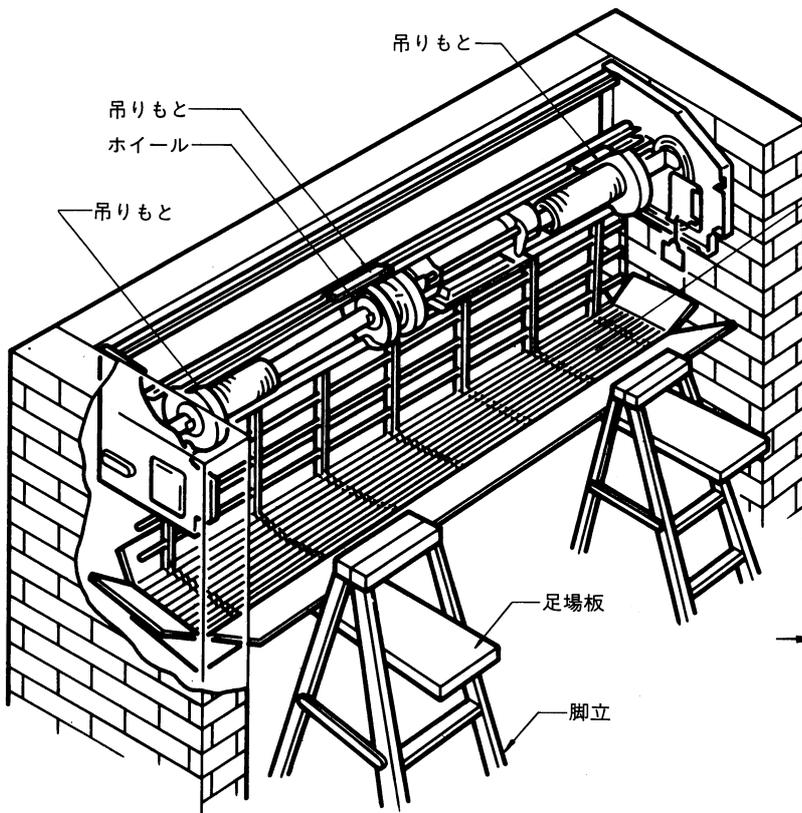
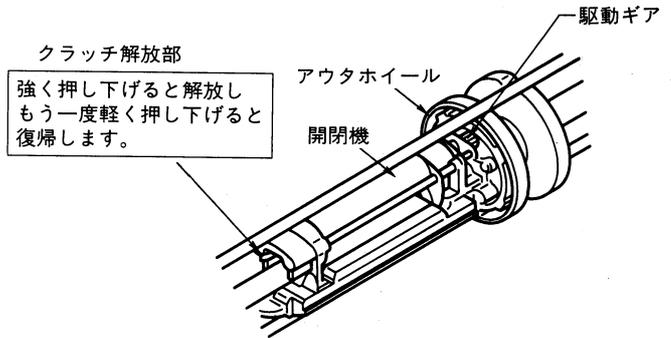
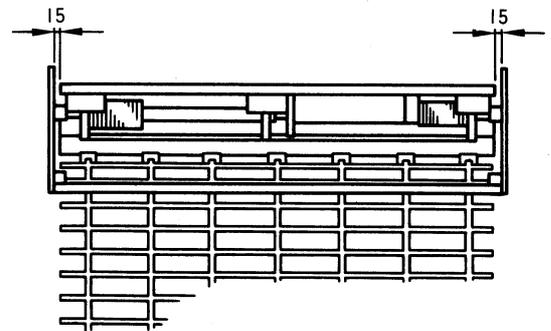
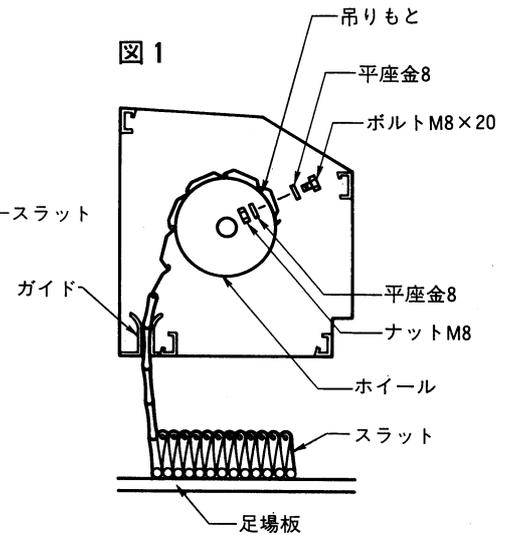


図1



スラット端部とブラケットの隙間が左右同じ（約15mm）になるようにスラットをずらして吊りもとを固定して下さい。

21.スラットの取付け(アルミの場合)

スラットの取付けは駆動ギアがアウトホイールから外れていることを確認した後行って下さい。
万が一外れていない場合は開閉機のクラッチ解放部を押し下げて外して下さい。

- ①脚立（6尺）の上から2段目で足場を組んで下さい。
- ②吊りもと用スラットを足場板の上に乘せて下さい。
吊りもとが図1の向きになるようにスラットを置いて下さい。
- ③吊りもと用スラットを少しほどいて下さい。
- ④吊りもと用スラット端部をガイドに通しながら吊りもとをホイール部まで引き上げて下さい。
- ⑤中央の吊りもとを「ボルト（M8×20）」でホイールへ固定して下さい。
- ⑥両端の吊りもとを「ボルト（M8×20）」でホイールへ固定して下さい。
- ⑦足場を外して吊りもと用スラットを静かにたらしして下さい。

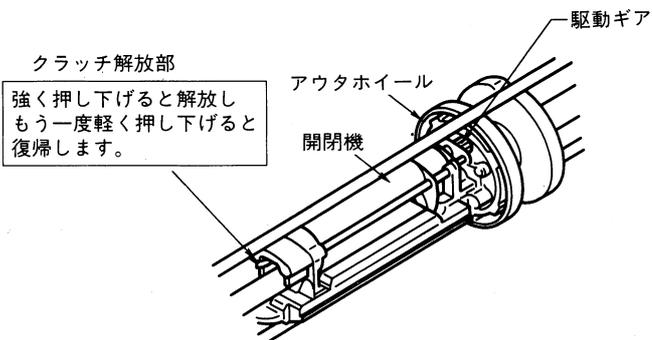
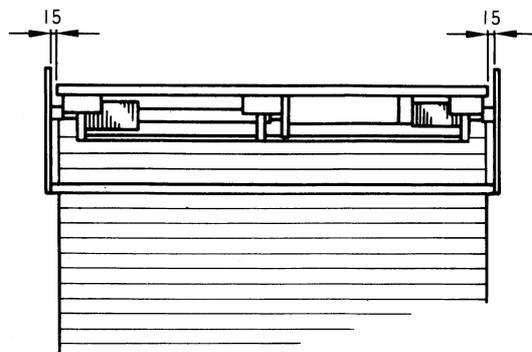
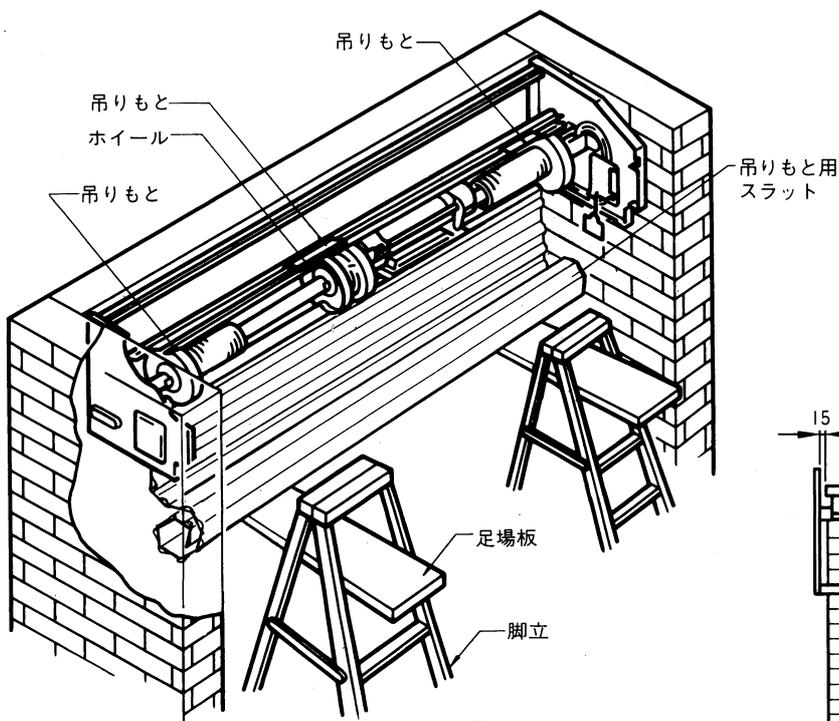
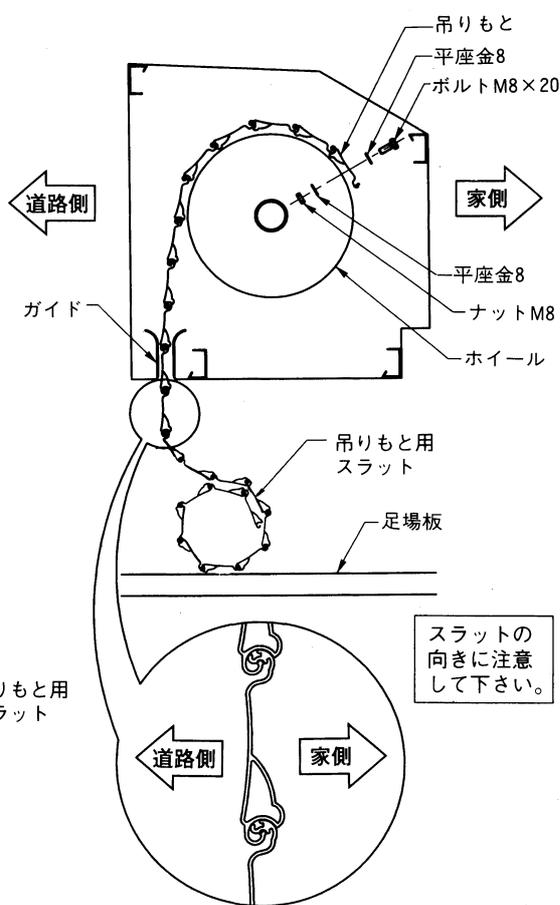
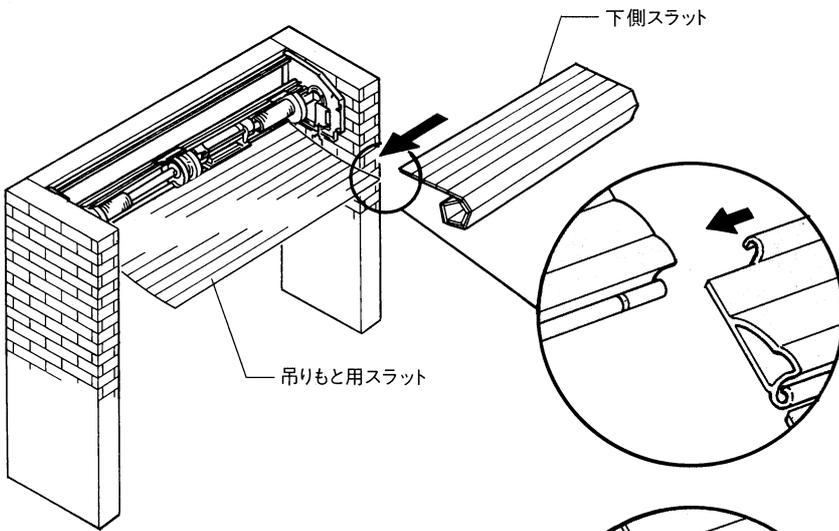


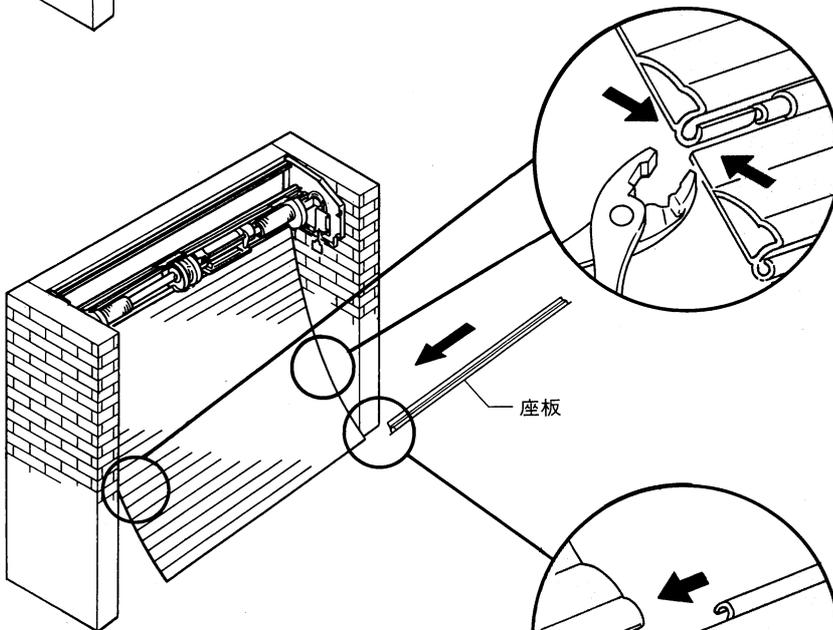
図1



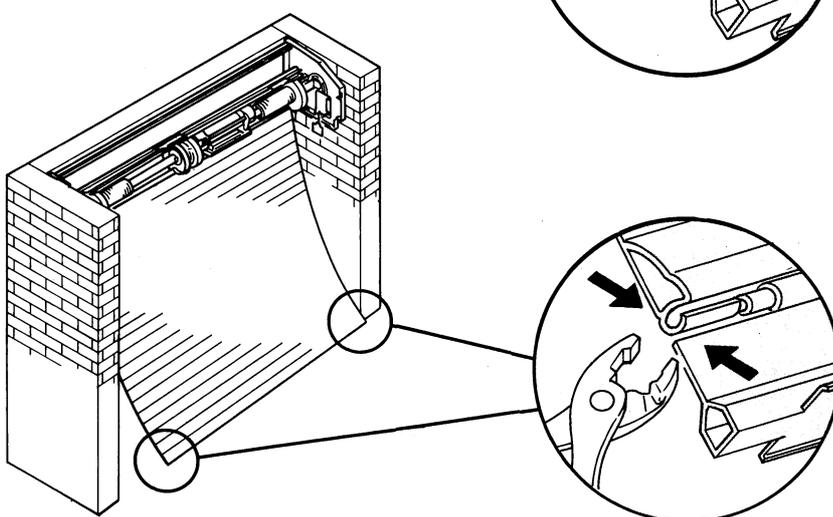
スラット端部とブラケットの隙間が左右同じ（約15mm）になるようにスラットをずらして吊りもとを固定して下さい。



⑧吊りもと用スラットを家側へ引き出し、下側スラットをスライドさせて下さい。



⑨吊りもと用スラットと下側スラットの連結部の両端をかしめて下さい。



⑩スラットを家側へ引き出し、座板をスライドさせて下さい。

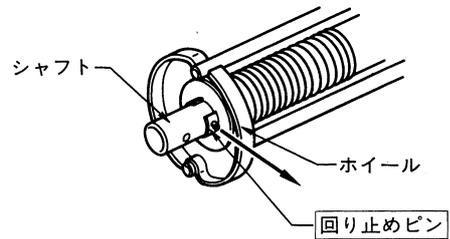
⑪スラットと座板の連結部の両端をかしめて下さい。

⑫スラットと座板の養生シートをはがして下さい。

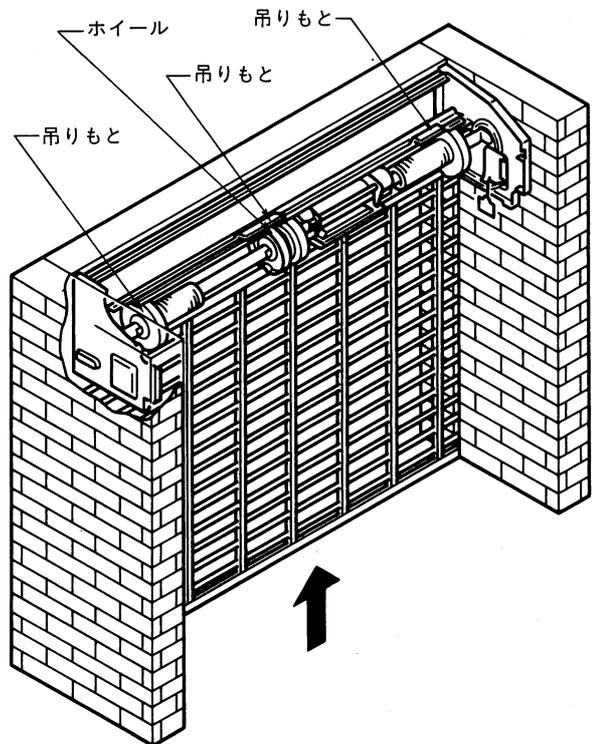
22.スラットの巻き取り

- ①ホイールとシャフトを固定している両端の回り止めピンを抜いて下さい。

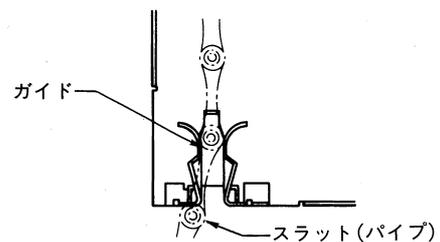
スラットを取付けるまでは回り止めピンを絶対に抜かないで下さい。



- ②静かにスラットを巻き上げて下さい。



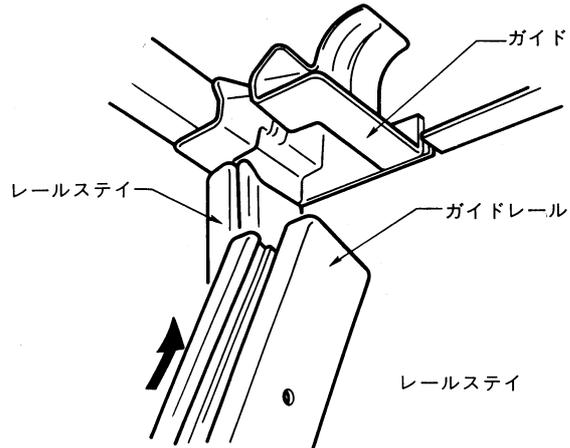
ガイドレールが無い場合ガイドレールへスラット(パイプ)が引っかからないように注意して下さい。



23.ガイドレールの取付け

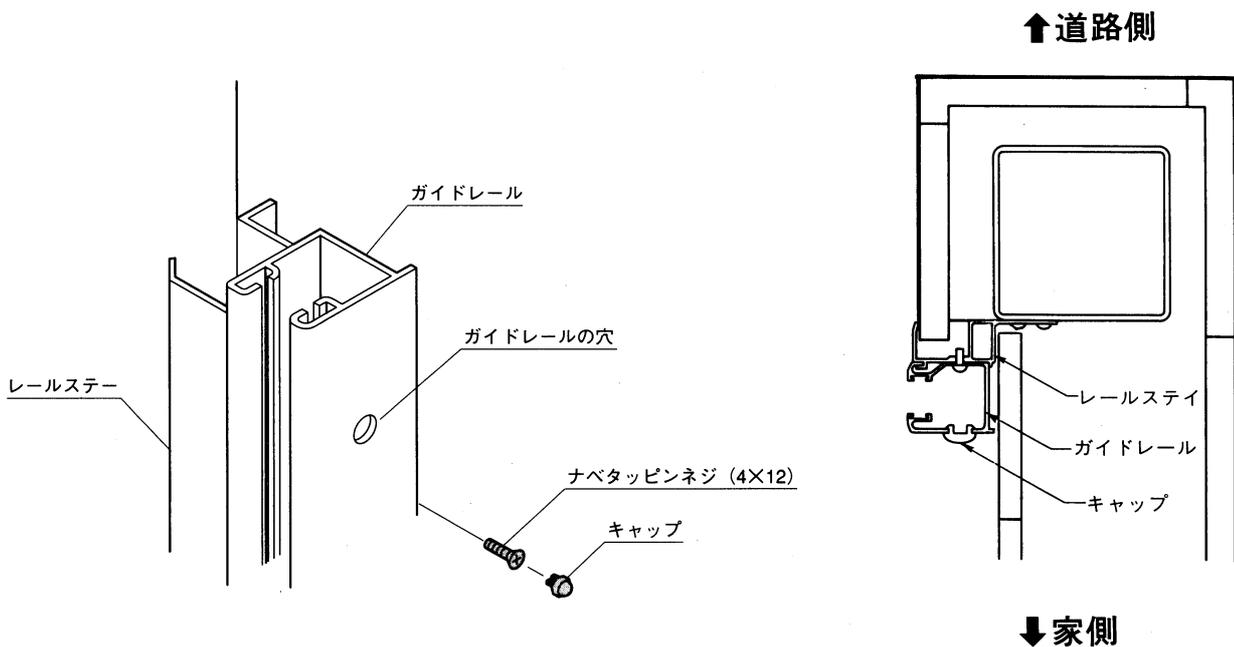
①ガイドレールをレールステイへはめ込みながらガイドへ差し込んで下さい。

ガイドレールの向きに注意して下さい。



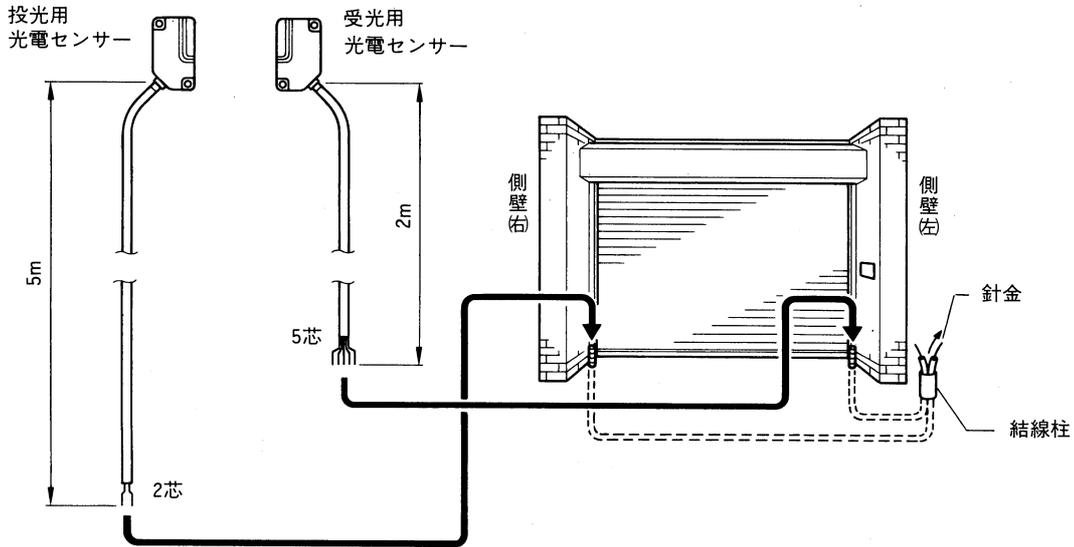
②ガイドレールを「なべタッピンネジ(4×12)」でレールステイへ固定して下さい。

③ガイドレールの穴をキャップで塞いで下さい。

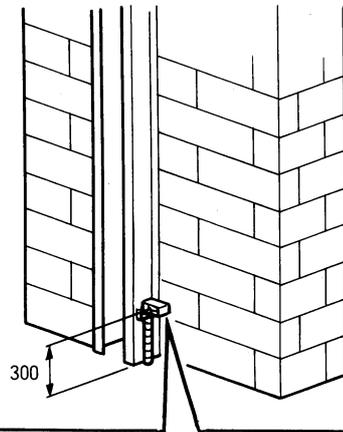


24. 光電センサーの取付け

- ① 光電センサーケーブルを、本体レール下部側より結線柱に、CD管付属の針金を利用して通して下さい。
尚、5 mケーブルの投光用光電センサーは、側壁(右)より、2 mケーブルの受光用光電センサーは側壁(左)より通して下さい。



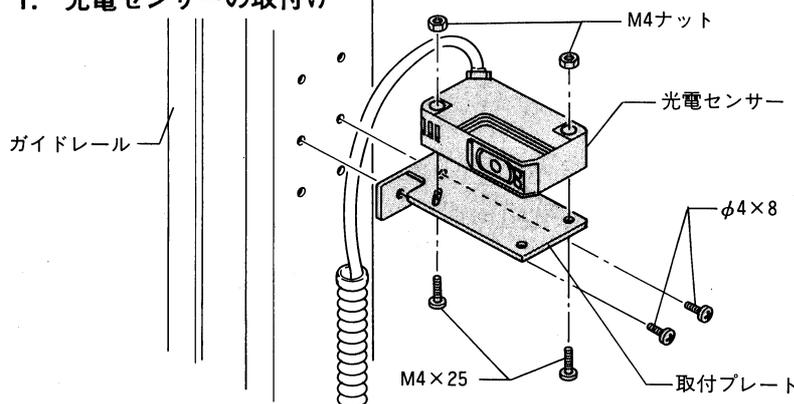
- ② ガイドレールに光電センサー取付プレートをφ4×8で取付けます。
③ 取付プレートに光電センサーをM4×25とM4ナットで取付けます。



注意

- 光電センサーは、左右両レールにありますので、両方取付けて下さい。
- 光電センサーカバーには、左右があり、CD管用穴が下です。

1. 光電センサーの取付け

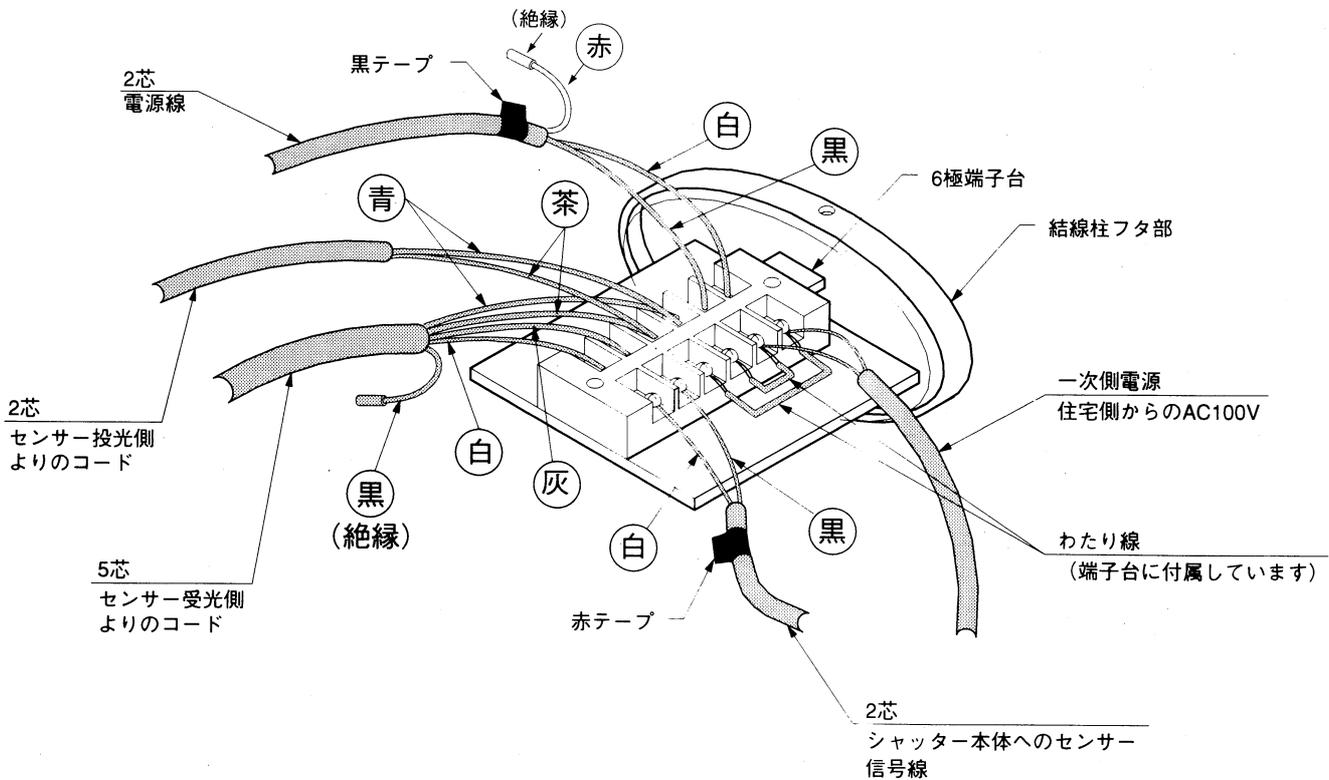
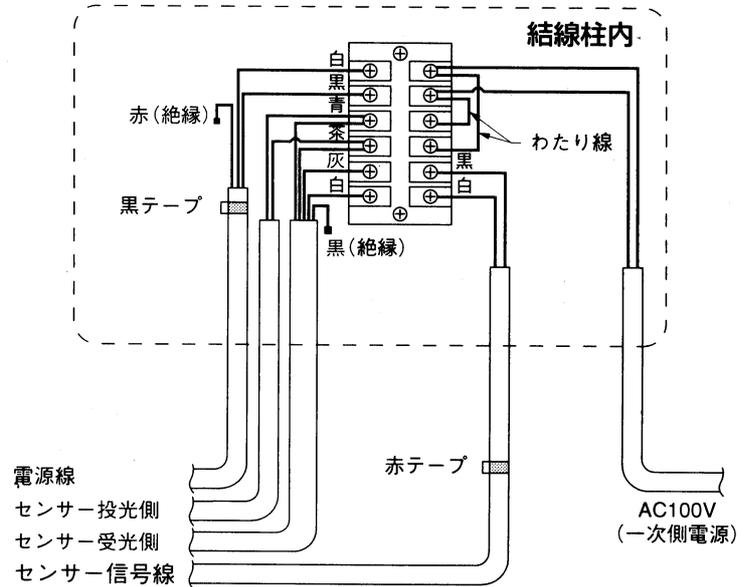


25. 結線 (この結線工事のみ有資格の電気工事店様へご依頼下さい。)

- 右図は、結線柱内での電源およびセンサーの結線を示します。
結線図に従って結線を行なってください。
尚、これらの結線工事は有資格者の電気工事店様へご依頼下さい。

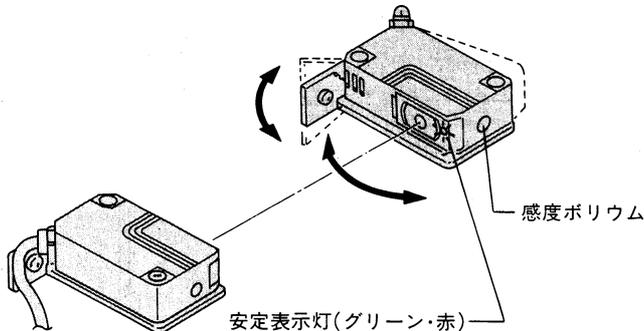
注 意

- 家側よりのAC100V電源が切れている事を確認して下さい。
- 結線図とリード線の色で、結線に間違いがない事を確認してから電源を入れて下さい。
- センサー線を結線柱内で端子台に接続する場合は、棒型圧着端子をご使用下さい。



26. 光電センサーの調整

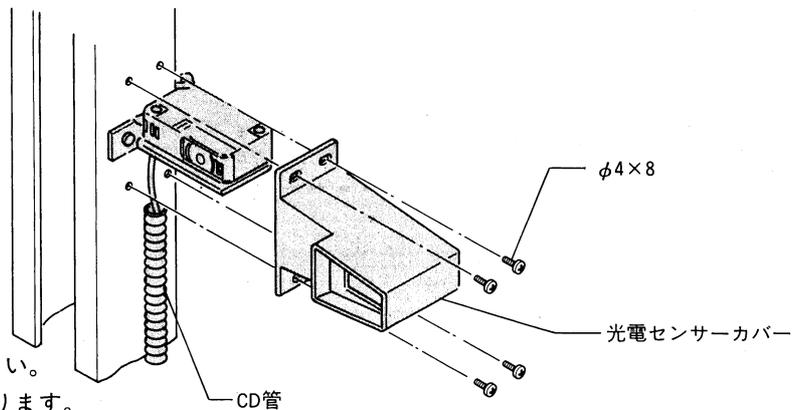
- ①電源を入れて下さい。
- ②光電センサーの光軸調整を行います。



- ①光電センサーを対向させ上下左右に調整し、受光機側の安定表示灯(グリーン及び赤)が点灯する範囲のほぼ中央で固定して下さい。
- ②①の操作を逆方向の光電センサーでも行って下さい。

(注意)感度調整等、光電センサー詳細については、光電センサー付属の説明書をお読み下さい。

- ③光電センサーカバーをφ4×8で取付けて下さい。
カバーには、左右があり、CD管用穴が下になります。



27. 上限、下限の停止位置の設定

これからの操作は電源(AC100V)を結線後、行って下さい。尚電気工事は電気工事店様に御依頼下さい。

上限、下限の停止位置を設定するまでは電動操作は絶対に行わないで下さい。

- 上限、下限の停止位置設定は押ボタンスイッチで行います。
- 上限、下限の停止位置設定は電源投入後5分以内に行ってください。5分を越えた場合は電源を入れ直して下さい。

- クラッチを入れて電源操作に切り替えた後、次の操作を行ってください。

1) 上限の設定

- ① 停ボタンを押しながら閉ボタンを3回押して下さい。
- ② 停ボタンを離して下さい。
- ③ ブザーが鳴り、押ボタンを押した時だけ動作する押し切りとなります。
- ④ 上限の設定位置まで動かして下さい。
- ⑤ 停ボタンを押しながら開ボタンを3回押して下さい。
- ⑥ 停ボタンを離して下さい。
(ブザーが鳴り止み、上限の設定完了)

2) 下限の設定

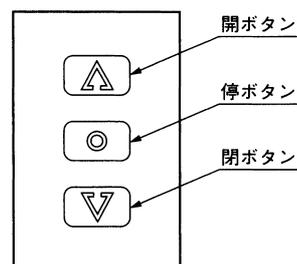
- ① 停ボタンを押しながら閉ボタンを3回押して下さい。
- ② 停ボタンを離して下さい。
- ③ ブザーが鳴り、押ボタンを押した時だけ動作する押し切りとなります。

- ④ 下限の設定位置まで動かして下さい。
- ⑤ 停ボタンを押しながら閉ボタンを3回押して下さい。
- ⑥ 停ボタンを離して下さい。
(ブザーが鳴り止み、下限の設定完了)

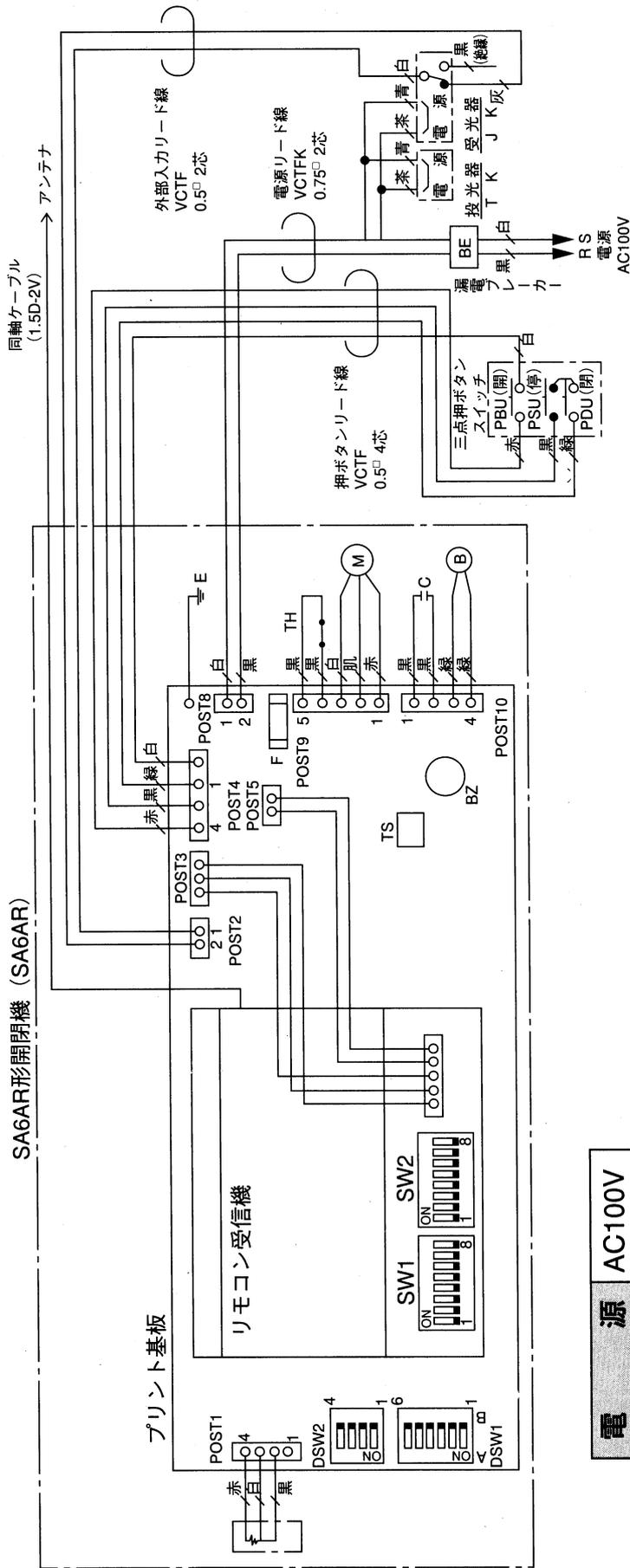
下限の設定時にブザーが鳴り止まない場合は③の状態での操作を行ってください。

- シャッターを下限からさらに1秒間位下げて下さい。
- 下限の位置へ戻して下さい。
- ⑤、⑥を繰り返して下さい。
- 次にもう一度上限を設定し直して下さい。

設定後の1回だけは停止位置がわずかにずれますが、2回目以降は設定位置で停止します。



28.配線図



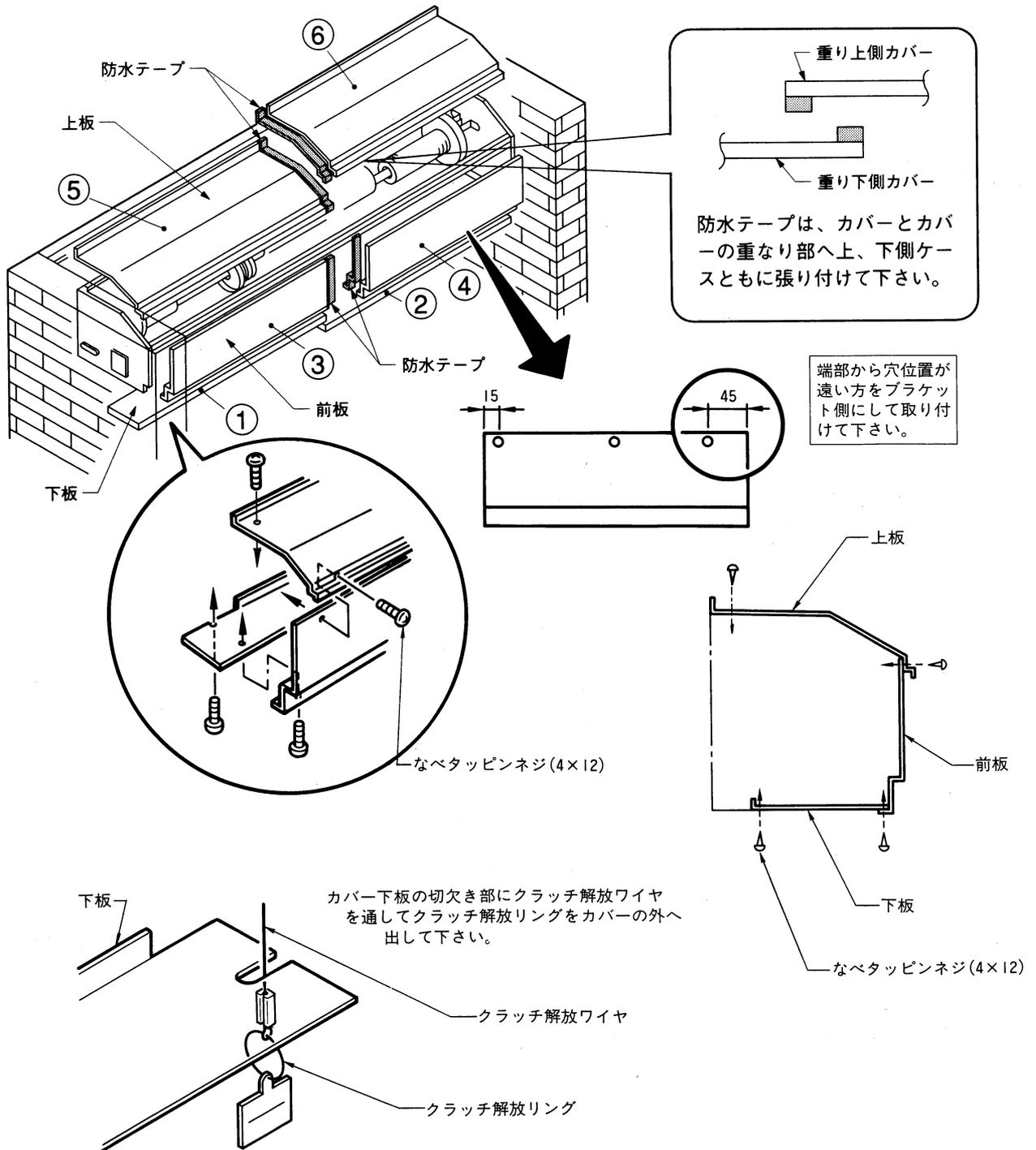
電源	AC100V
定格出力	40W
定格電流	1.7A
起動電流	1.7A
定格電流	2.0A
起動電流	2.0A

29. カバーの取付け

カバーに表示されている数字に従って取付を行なって下さい。

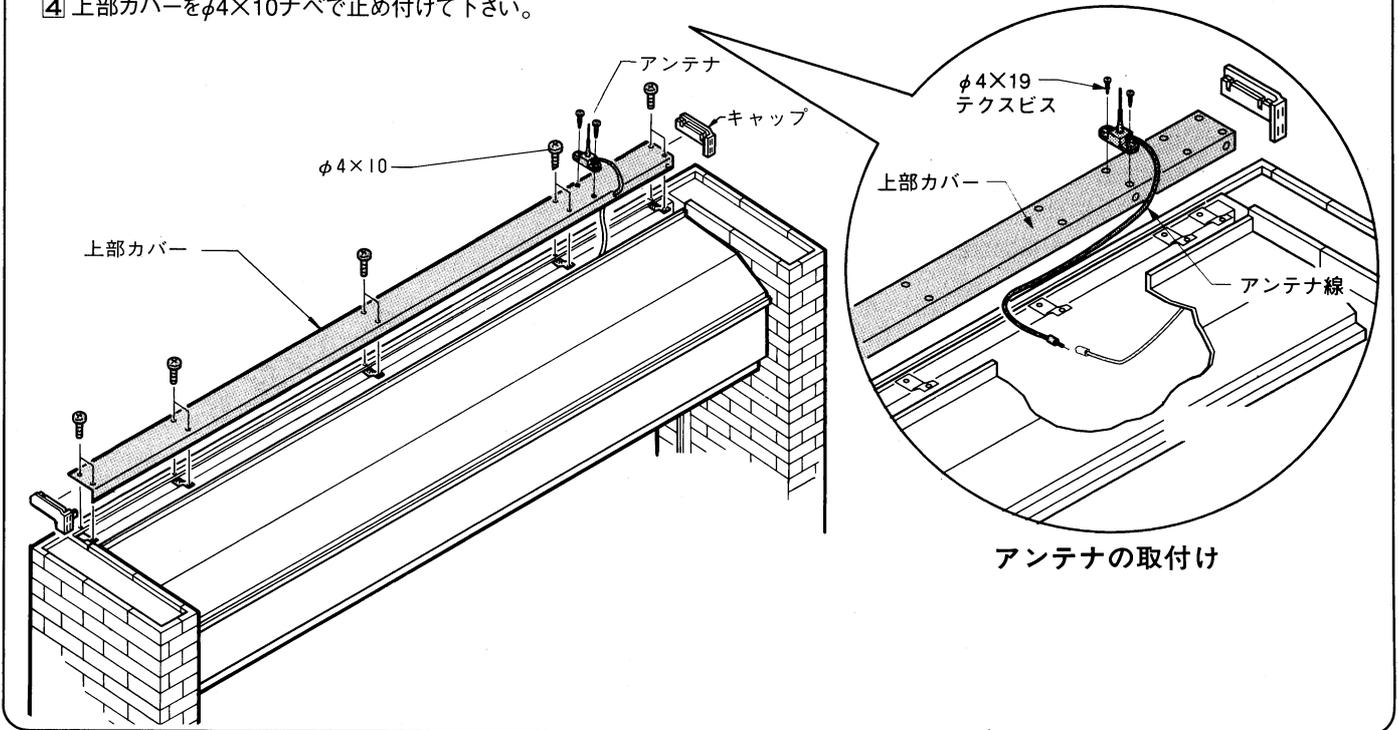
全てのカバー板を取付けるまではネジは仮止めとして下さい。

- ①③～⑥の4枚のカバーに防水テープを貼付けて下さい。
- ②下板の内まぐさ側（奥側）を「なべタツピンネジ(4×12)」で固定して下さい。
- ③前板の下側と下板の手前側を重ねて「なべタツピンネジ(4×12)」でカバーアングルへ固定して下さい。
- ④上板の手前側と前板の上側を重ねて「なべタツピンネジ(4×12)」でカバーアングルへ固定して下さい。
- ⑤上板の躯体側を「なべタツピンネジ(4×12)」でカバーアングルへ固定して下さい。



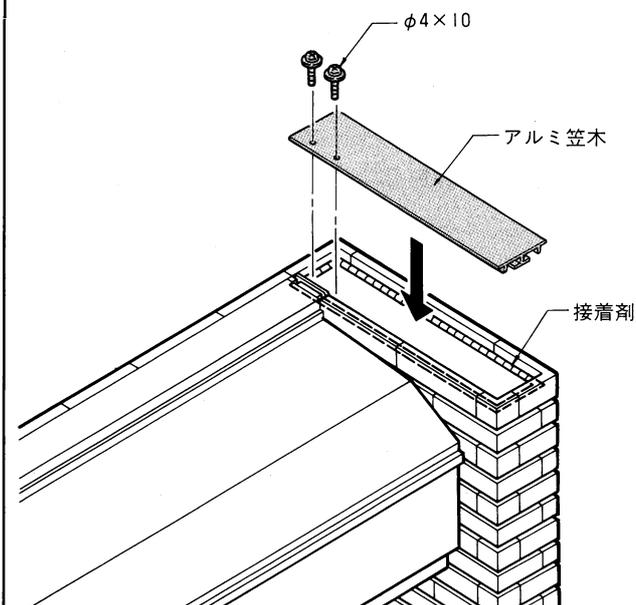
30. 上部カバー及び笠木の取付け

- ① アンテナをテクス(φ4×19)で上部カバーへ取付けて下さい。(下穴はありません)
- ② アンテナ線をシャフト側アンテナ線に接続して下さい。
- ③ キャップを上部カバーにφ4×10ナベで取付けて下さい。
- ④ 上部カバーをφ4×10ナベで止め付けて下さい。



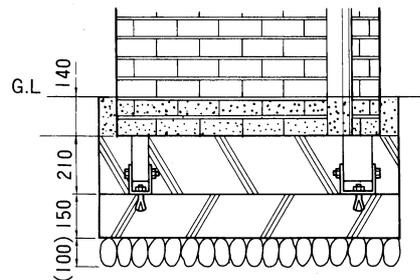
31. アルミ笠木の取付け

- ① タイル周辺に接着剤を塗布します。
- ② アルミ笠木を充分押し接着しφ4×10のビスで止めて下さい。
- ③ タイルとの目が均一になるように調整して下さい。



32. 土間コンクリート打ち

- G.L.まで土間コンクリートの打設をお願いします。



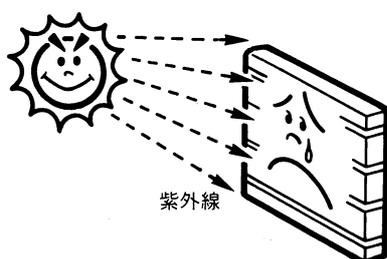
33. 施工上の留意点とお願い

1) 下地材に関する留意点

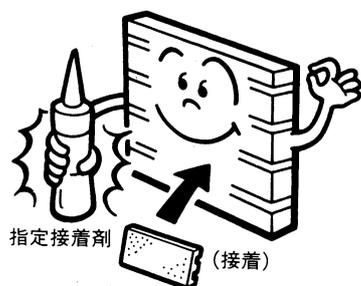
■下地材は太陽光線のもとに長期間放置すると紫外線により表面が劣化するおそれがあります。

開梱、固定後は速やかにタイル張りを行ってください。日を置く場合は必ずシート、ダンボール等で養生をしてください。

万が一劣化等が見受けられましたら、柔らかいブラシ等ですみやかに取り除いてください。



■タイルの接着には必ず当社指定の接着剤を使用してください。他の物を用いますと接着剤に含まれる有機溶剤で下地材が侵されたり、接着不良を起こしたりします。

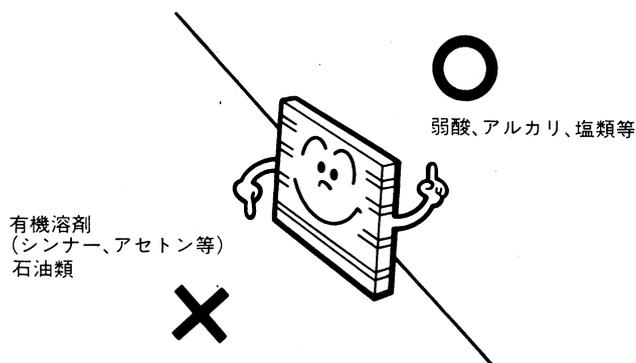


2) タイルに関する留意点

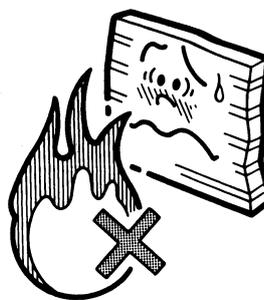
■タイルはJIS A5209(陶磁器質タイル)で種類・形状および寸法・外観・反り等の基準が規定されており、テグラゲートのタイルもこれに準じております。ただし、長さ、幅、反りについては許容値が大きい事をご承知おきください。

■タイルには焼物特有の色幅があり、これが独特の風合となります。特に「レンガ色」は製法上、色調のバラツキ色幅が大きくなり、虹状に見える場合があります。

■下地材の化学的性質は一般に弱酸、アルカリ、塩類などには優れた抵抗性を持っていますが、アルコール系以外の有機溶剤や石油類に侵される性質を持っています。



■下地材は難燃材を含んでいますので、微少火源では着火しにくくなっていますが、燃える性質があります。火気には十分にご注意ください。また、80℃以上になると変形しますので、高温のものは近付けないでください。



工事店様へ

- 仕上げ後、本体についているモルタル等は完全に拭き取ってください。硬化後拭き取りますと表面を痛めますのでご注意ください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様へお渡しください。
- 御使用頂きましてありがとうございました。次回も当社の製品を御使用ください。

取説コード

D229

96-05A
200103F